CASKET STYLE 11-12

CASKET STYLE 11-12

Publisher : Tsutae Teshima
Editor in chief : Hiroshi Teshima
Editional staff :
Reiko Yamada
Shintaro Kinoshita
Designer : Hirotaka Matsuzoe
Illustrator : Lady bird , Studio vis
Photographer : Hiroshi Teshima

Contribute writer & photographer
Shinya Yamaoka
Takashi Sano
Numa
Shinichi Nagamori
Shinya Amano

Special thanks
Shinichi Tsuchiya
Yuuichiro Ishida
Lozical Baits
Stream design
Naohisa Masuda
Kentaro Kawamura
Isamu Tsuneyama
Yoshitaka Takeuchi
River runs K
Kazumi Morizono
Kruise Keita Akama
Kenji Hisaka
Naoki Ishikawa
Yasuhiro Konishi
Kiyotaka Yamanaka
Natsuki Sakurai
Shigetoshi Nakajima
Yukiko Yotsumoto
Akinobu Etou
Yuuichi Honda

CASKET
〒816-0802 福岡県春日市春日原北町3丁目-51
TEL.(092)581-1187 FAX.(092)592-3848
http://www.club-casket.com

一美の鱒に息さえ忘れ、

自然の中にいると
怖くなる時があります。
でも帰ってきた時はいつもより嬉しい。
大事なあなたが笑っていると、
少しだけ悩みが軽くなりました。
釣り場に向かう車の中で、
仕事のアイデアが降りてきます。
友達の悩みや、
くだらない話をするだけでいい時間。
でも魚がかかった瞬間、
僕はたぶん一切を忘れています。
それは子供の頃から変わりません。

鱒

素晴らしき、日本の鱒たちよ。

いつだったか、渓流帰りの温泉の湯船で老人が言った。
若いの、ヤマメの一生を知ってるかね？
ヤマメは川の上流で生まれてしばらくそこで過ごすが、
必ず1匹だけ強い雄が出るんだ。
こいつはカラダが大きくなるのも早くて、
ほかのヤマメは一緒に暮らすことが出来なくなる。
そうしてほかのヤマメ達は餌や自分の住処を求めて
川を下らなきゃならん。
いつしか海にも出る。
四年後、彼らが川に帰ってくる。
海で育ったヤマメは銀鱗の大きなサクラマスになって帰ってくるんだ。
そして秋に上流で産卵をするわけだが、この時の雌はある雄を探す。
こいつがあの時に残った雄なのさ。
こいつはサクラマスに負けないくらい大きくて、
サクラマスよりも強い。鼻が曲がって、牙も生えて、
とにかく格好良いから、まあ雌にモテモテってわけさ。
若いのも雄ヤマメになりな、頑張れよ。

そんなヤマメ、いつか逢ってみたいと思っていた。

2010年夏、手島が幽谷の谷でネットインさせたヤマメは53cm。今でも震える。ロッドはトライアンフTRB72MHS、ルアーはトラッドミノー90F。

CONTENTS

P2 イントロ/P4 コンテンツ/P6 スペイサイド/P10 トライアンフ/P14 ハイパーブレイク/P16 レボリューション/P20 トラディション/P24 カスケットロッドオーダーシステム/P26 ペゼルシステム
P34 コンクルージョン/P38 コラム/P40 銘木図鑑/P42 ソルティスペイサイド/P48 シンプリー/P52 バストップウオーター/P56 バスフライ/P60 トラッドミノー/P64 ジャックガウディ

2010年、秋。どこまでも広い大河にイトウを探すのはもはや無謀にも思えた午後。諦めきれず熊が出そうな薮をかき分け川に出る。ついに川村のスペイサイドがグンと曲がった。これが日本の鱒の王イトウである。

SPEYSIDE — スペイサイド —

イトウに、鱒に、魅せられて、いつかはスペイサイド。

取材協力：川村謙太郎

幼い頃から釣りをして、いつかは釣りたいと思っている魚がいた。まずはピラニア、ピラルクー、ドラド。開高健のオーパの影響そのままである。でも最も釣りたかった魚とは「イトウ」だった。僕らの世代でイトウと聞くと、大抵が矢口高雄の「釣りキチ三平」を思い出す。そう、僕もその口だ。このカタログを見て、イトウを知らない人はいないと思うが、イトウは幻の魚と呼ばれ、北海道のアイヌ伝説には川を塞き止めたイトウの話や大木と間違えた話など大袈裟で信じ難い話も多いが日本の鱒族の最大魚であることは間違いなく、ネズミも喰ってしまう魚というところに僕は激しくリスペクトしていたのだ。この魚をいつかは釣ってみたい。僕はずっと思っていた。しかし右も左も分からない北海道の原野。イトウの棲む川の湿原には谷地眼と言って、見た目は直径50㎝〜1ｍくらいの水たまりのようで、その深さは、深いもので は4ｍにも達する天然の落とし穴があるという。落ちたら助からないではないか。それにヒグマもいるというから九州育ちの僕はまったく手がかりがなかった。僕のイトウの夢に光明が差したのは今から約十年前、通販で知り合った「川村謙太郎」という稚内の方からイトウの投稿が来たことだった。とうとうちのお客様にもイトウを釣る人が現れたか…と思った。(笑)彼の釣り道具を一年ほどお世話するうちに、「てしまさん、イトウ釣りに来てみないか?」と言う。「イヤイヤ僕なんか…」など遠慮するはずはない。僕は二つ返事で飛行機に乗った。忘れもしない最初のイトウは30㎝にも満たない小さなイトウだった。しかし僕はこのイトウに感動したのだ。それは小さくとも初めてのイトウには違いなかったが、この釣りの前に川村氏からイトウとは30㎝になるのにも5年は掛かること、そして小型が釣れるということはイトウの川が再生産されていて、幻の魚にはまだならない

証だと教えられていた。5年と言えばヤマメの寿命である。息子が小学生になってしまう。そしてその釣りの最後に出逢ったイトウは78㎝だった。僕の感動は頂点である。一体このイトウは何年生きているのだ?と考えると手が震えた。後に同級生だと知った川村さんが僕に吐露した。それは僕が最初の一匹目の30㎝のイトウに感動しなかったら、僕を次の釣りには誘わない、そんな人物なら誘いたくないと思っていたらしい。以来、僕は毎年彼とイトウを狙うことになる。もうこれで何回目のイトウの川だろうか?僕の感動はまだ続いている。そして幻を確かめるようにイトウを釣るのだ。ところでイトウの棲む川は意外に透明でないことをご存知だろうか?僕も行くまで知らなかったのだが、これはタンニンなど大地の栄養素を含む茶褐色で湿原の風景は北欧に似ているらしい。スコットランドと言えば僕が大学生の時に通ったバーのマスターが聞かせてくれたスペイサイドを思い出す。僕の憧れの地、二つ目はスペイサイドである。スペイサイドとはスコットランド北東を流れるスペイ川のほとりという意味である。この地はスコッチで名高いウイスキーの蒸留所が軒を連ねる。もちろん鱒も釣れる。ここはイトウでなくアトランティックサーモンである。僕と川村氏はいつか二人でこの地を訪れることを約束する。子育ても終わり、仕事が一段落するのはあと20年は掛かりそうだが、彼の地、スペイ川で二本の竿を並べ、ショットグラスに生まれ年のマッカランをグビッと飲るのが僕らのいつかの夢なのだ。いつかの夢にスランジーバ!

[スコットランド語で乾杯]

せっかく会えたのだ、少し話をしないかい?弱らせないように十分配慮して、しばらくの時間を一緒に過ごした。釣り師として至福の時間なのだ。すっかり回復したイトウは暗い水底に戻って行った。

北海道、洞爺湖。美しい神秘の湖に行ったことのない北欧の鱒を思い浮かべている。北欧の釣師に聞けば北海道の方が釣れるとか。(笑)

ROD:SPB88HS

スペイサイド ブランクカラー:クリアグリーン

SPB88HS	Taper design F → M
SPB92XHS	Taper design F → M

写真のロッドは「SPB88HS」、グリップタイプG-II「樽瘤」。表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。オプションやロッドの注文の仕方は24頁を参照ください。

Speyside SPB88HS

Lure weight 7~24g,Line class 8~16LB,GRIP:Double(END 260mm),Titan K-Guide

大河川でディープミノーを引き続けるアングラーにはこの1本。なぜならモンスターサーモン狙いで最初に作られたSPB92XHSよりもレングスを短く、ミッドからバットのパワーもサーモン狙いで必要最低限のパワーを見直すことで、さらに軽量化を得ているのだ。まさにモンスタークラス狙いのシェイプアップモデルである。このスペイサイドを選ぶ時、SPB92XHSが海まで対象とする方が多いのに対してSPB88HSは湖などを主体にする方が多い。これは目的の対象魚や流れの強さなどを知り尽くしたアングラーの要望によるところが大きい結果だ。サクラマスの河口部狙いや湖のビッグトラウトにジャスト。

SHINYA AMANO
早朝の洞爺湖がついに爆発した。バッハとスペイサイドの響宴である。

Speyside SPB92XHS

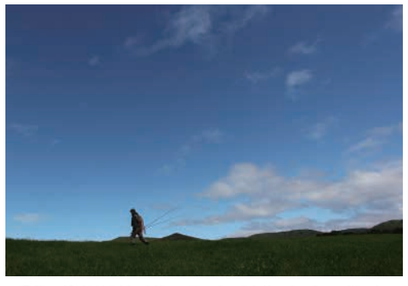
Lure weight 10~35g,Line class 8~20LB,GRIP:Double(END 270mm),Titan K-Guide

湖や北の大河におけるモンスタークラスの鱒を相手に開発。ディープミノーや重量スプーンを楽に投げて、キッチリと引くことが出来る。しかしながら軽量なバルサミノー9㎝なども長く取られたティップで放つことも可能にしている。またサーモンクラスながら軽量(最小重量180g)に仕上げ一日中振っても疲れない。また柔軟に受け止めながらも強烈なバットはモンスタークラスの突進を食い止め、たとえ曲がり切った後でも、最後のバット部分にはチカラを溜め、いざとなれば強引に顔をこちらへ向けることが出来る余力をも備えた。モンスタートラウトを獲るならこの1本が必要である。

SYUICHI ITO
知床の海に豊かな鱒が帰る。わずかなバイトをソフトティップが捉えた。

まずは日本のスペイサイドこと、余市のニッカウイスキ工場に行っておきたい。

洞爺湖の霧の湖面はルアーの距離感がなくなるほど幻想的である。



湿原の丘陵地帯を延々と進み、熊が出そうな笹薮を突破して川に出る。

幼魚らしいオレンジのヒレが可憐だが3年は生きているという。

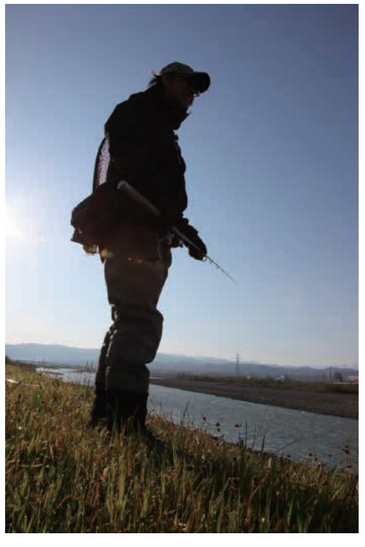
大人になるとこの眼光と風格。それは日本最大鱒の威厳か。

TRIUMPH — トライアンフ —

サクラマスを釣る人。

取材協力：常山勇、竹内義貴

温かい風と雪解の川に触れると春を感じた。
そろそろサクラマスが遡って来る。



サクラマスの川には、その川ごとに有名人がいる。もちろん釣りが上手で毎年結果を出す名人から、同じ場所に一日中立ち続けるちょっと頑固な人、はたまた釣り方が不思議で怪しい人まで様々である。ここで紹介する常山勇はもちろん前者である。僕は全国の釣りが上手いと言われる地元の有名人に出会ってきたが、彼らには共通点があった。まずグルメである。水や食事にうるさく、美味いものを知っている。大酒飲みもいるが、たいてい少量でも酔うことが出来て、夢想家であり、子供っぽいくせに凝り性、飽きっぽいのに水辺では粘り強く、シャイだが打ち解けるとエロイ、Y談は好きである。「開高健」説はほぼ合致していると思われる。そして常山はそんな仲間をたくさん持つ。僕はそんな恐ろしい男達が待つ川に来てしまったのだ。そしてもう一つ、彼らは釣り方に細かい。大雑把に見えて緻密な攻め方をする。偶然を装っているが必然である。淡々と狙っているのだ。常山が今回釣ったサクラマスはまさにそんな魚であり、僕は驚愕したのだ。白状しよう、僕はこのポイントを先に狙った。常山が「いいポイントですから」と言って譲ってくれたのだ。「この辺かな」。と言われたポイントにルアーを投げ入れる。あらゆる攻め方をして3つほどルアーを変えただろうか、「出ないですね」。そう言うと、もう一人来ていた竹内氏がミノーを打ち込む。彼もサクラマスを毎年コンスタントに上げるアングラーである。彼が攻めても水柱は上がらなかった。そこにサクラマスがあざ笑うかの如く水面に背中を出して大きくドボンとライズした。いるではないか。見えている魚はなかなか難しい。そこへ「最後に僕が・・・」と常山が出てきた。狭いスポットにやり尽くした感があった。しかし、常山は「これしてあれして出ないということは・・・こうかな？」ひゅっとミノーを投げ入れる。グリ

Triumph

この顔だ、この顔なのだ。最後まで諦めない強烈な眼光にサクラマスの威厳と風格をカメラのレンズ越しに見る。彼らの遡上は凱旋と言うに相応しい。

とにかくこの時は興奮した。雪解け水の重い、強い流れから70cmの魚体を1cmづつリフトしてついに最後の瞬間が来た。よくラインが切れなかった。

それはシレット巻きへの布石。

グリっとリーリングを開始。ミノーがダウンに行きかけてハンドルは流れを綺麗に掴ませることを意識している様子だった。彼はこうした「ただ巻き」のことを「平巻き」と呼ぶ。格好よく言うと「フラットリトリーブ」だと言う。つまり強弱のある複雑な流れでミノーの抵抗の強弱を一定にするよう心掛けているのだ。それは後の「シレット巻き」への布石である。そして常山は見ていた。僕ら二人が今、この「平巻き」をしていなかったことを。無情にも戻ってきたミノーだが抵抗感の違和感を感じた場所があった。トライアンフは鋭敏なセンサーのようにそのスポットを教えてくれるという。今度はその場所へミノーを投げる。ミノーが水流を掴んだ瞬間、ギュンとトライアンフが川の真ん中に突き刺さった。一同、「ええ〜!」である。散々攻めて1分もたたない時間にサクラマスがヒットしたのだ。信じられない光景だが目の前に起きていることは現実である。しかもデカイ。見たところ70cmはありそうな銀色の魚体が下流に向かって一直線に走る。立ち位置的に下流向きのファイトを強いられたのだ。これ以上、下られればおしまいだ。それが分かっていた常山はリールのスプールを手で押さえロッドエンドを腹に当ててジワジワとリフティングに掛かった。サクラも懸命に流れを右に左にもがき、木の影に入ろうとしたが常山は素早く下流の木まで下り、ロッドをかわす。これだけのテンションが掛かっているのに冷静に動ける釣り人はそうはいない。サクラマスは1cmづつと言いたいくらいジワジワと寄ってきた。僕は撮影に回っていたら竹内氏がいつのまにか常山のネットを背中から抜いていた。祈るような時間、針も伸びるのではないかと思うようなテンションが掛かり続けたが常山は勝利した。今年も凱旋の桜鱒をその手中に納めたのだ。

常山特製のローストビーフ。

徳田氏が釣った72cmのサクラマス。初めて見た。

今まで見たサクラマスの常識を覆す体型、デカイ。

ラバーのロッドエンドを腹に当ててリフトに掛かる。

Triumph TRB72MHS

Lure weight 5~14g,Line class 6~10LB,GRIP:Double(END 220mm),Titan K-Guide

本流の戻りヤマメやサツキマスを狙いにジャストな竿。5cmクラスのミノーから14gのスプーンもキャスト出来る。実は全国の本流(中流)と呼ばれるエリアは川幅や水深も様々で、あらゆるルアーを駆使する。そして対象魚も30cmから60cmオーバーのレインボーまで幅広い。これらの目的をかなり高次元で達成しているのがこのロッドである。トライアンフブランクの共通コンセプトであるティップまで張りがあり、戻りの早いテーパーデザインはTRB72MHSでも共通。そして掛けてからのパラボリックなやり取りで確実にフッキング、そしてキャッチ。40cm超えの幻ヤマメ、アマゴに出逢うチャンスを広げます。

KOUJI IWASHIMA

今年も出逢えた皐月鱒。トラッドミノーで獲った長良川の砲弾である。

Triumph TRB77HS

Lure weight 7~24g,Line class 8~16LB,GRIP:Double(END 260mm),Titan K-Guide

サクラマス狙いでテクニカルな技を駆使する方にはこのロッドがオススメ。TRB83HSがサクラマススタンダードに対して、こちらは狭小な河川で正確なコントロールやバックが取れないフィールドで威力を発揮する。トライアンフに使用されているカーボンは特に戻りが早い純度の高いカーボンを使用しているため通常の長さのロッドよりも1ft短いと感じるほどだ。そして軽量と張りが生み出すティップのレーダー効果はディープミノーを引きやすく、流れの強弱や岩との接触、魚の追尾も教えてくれるだろう。最近はこのブランクの完成度の高さに川鱒やボートシーバスで愛用する方も多い。

YOSHITAKA TAKEUCHI

竹内は狭い川幅のサクラマスをこのロッドで狙って獲れるようになった。

Triumph TRB83HS

Lure weight 7~24g,Line class 8~16LB,GRIP:Double(END 270mm),Titan K-Guide

日本におけるサクラマス河川を1本で攻めるならこのロッドです。それまでのサクラマスロッドにはなかった張りと腰の強さ。ティップまで張ったデザインはディープミノーを引く時、レーダーのように鋭敏で流れや岩との接触、魚の追尾までも教えてくれる。発売当初はこの張ったデザインがサクラマスを弾くと言われたこともあったがそれは使ってみると一変した。あまりの振り戻りの早さに見えなかったパラボリックな追従性が姿を見せたのだ。喰った瞬間から始まる暴虐なサクラマスのローリングを一気にミッドまでしならせて耐えてみせ、じわじわとそして確実に寄せることが出来る。

SHINOBU MIHARA

北陸サクラマスの先駆者、三原が川に出る時はいつも水面が割れる。

トライアンフ	ブランクカラー:クリアブルー
TRB72MHS	Taper design F → M
TRB77HS	Taper design F → M
TRB83HS	Taper design F → M

写真のロッドは「TRB83HS」、グリップタイプG-I「花梨瘤(白)」。表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。オプションやロッドの注文の仕方は24頁を参照ください。

HYPER BREAKE — ハイパーブレイク — 文と写真：山岡真也

本流ショートロッドスタイル。

「ゴゴゴ」という地鳴りにも似た雷鳴で目が覚める。そう言えば昨夜は仕事が終わり、そのまま車でここまで来て、シートを倒すのも忘れて寝てしまったのだった。天井は大粒の雨音が叩いていた。朝の一瞬でも止んで欲しいと心の中で願っていたが、夜が空けても雨は無情に降り続ける。とりあえず車を降りて真っ茶色の濁流を確認してから、家路に車を向けた。渓流において「雨」は厄介者であるが、「大物の呼び水」であることも確かだ。この加減というのは自然のことであり、人間が一喜一憂してどうなるものでもない。いや、この雨に翻弄されるところまで含めて渓流釣り、とくに本流での大物釣りだと言っておきたい。自惚れではあるが、僕はそこそこの大物を毎年上げている。よく仲間にどうやったら大物を毎年釣ることが出来るか?と聞かれる。実は自分でもよく分かっていないが、強いて言うならば道具の準備には余念がない。例えばフックのシャープニング、リップの変形をチェック、ラインは毎釣行ごとに巻き代えているし、少しでも不安や納得がいかないところは修正してから川に投げ入れるよう心掛けている。それは掛かった後で後悔したり、ヒヤヒヤするのがイヤなのだ。そんな道具偏愛が高じてネットもミノーも自作するようになった。作るとメーカーの意図が分かってきて、どんな流れで使ってきたのか想像できるようになった。自分でも試してみて、それが流れで上手い具合に泳ぐとやはり魚が釣れる。こうして魚と道具の関係を見ていくと、自分の欲しい竿がないことに気がついた。それは本流をショートロッドで快適に攻める、いやショートロッドでしか出せないアクションで淵に潜む鱒を誘い出すロッドがなかったのである。3年ほど前からレボリューションのRB55MSを使用して本流ヤマメを引きづり出してきた。しかし昨年、ある大物が掛かった時、このロッドではどうしようもなかった。掛けた位置も悪かったが、バットが強いはずのRB55MSでも手前の流れにラインを喰われてフッキングがまったく出来なかった。こうした状況は滅多にあるモノではないが、今まで見たこともない大物だっただけに悔しくて、自分のモットーである準備万端を疑うことになったのだ。そこでカスケットに相談した。RB55MSよりもバットが強くて、もう少しロングキャスト出来るロッドが出来ないか?はじめはRB62MSを使用すれば済むようなモノだと自分も思っていたが、これではやや強すぎて、自分の好きなアクションが変わってしまった。しばらく待つと以前の試作でそう言うものがあると言って、1本のロッドが送られてきた。これが今のハイパーブレイクだった。6FT。昔はスタンダードな長さのロッドだったが、細分化されてきた現在となっては、長さも強さも中途半端なロッドということでお蔵入りになっていたらしい。だがセンターカット2ピースのボロンコポジット、ファーストテーパー。触った瞬間、これだと思った。現在の自分が考える理想に近いロッドは意外にも昔のスタンダードなロッドだったのだ。しかしそのロッドには最新のハイカーボンが巻かれていた。戻りが速く、瞬時に次のアクションが打ち込める。強い谷風が吹く本流でこのオーバースペックはキャストを助けるし、場所によっては強引な引き寄せを可能にすると思う。そして今年の最後の釣りでこのロッドが本領を発揮した。AM5時 曇り 気温13度。最初のポイントに着くと、先日の残りか、濁りはある。しかし今度は「呼び水」の状態である。先行者が居た。様子を聞くが魚が居る気がしないとのこと。しばらくすると、深谷に光が射した。日が射すタイミングを待って、このポイントへ来ていた。そして幸先よく尺クラスが2本も出た。しかし今日はここからだった。この2匹から、次の攻める位置は対岸だと思う。早い流れを慎重に渡り、立ち位置を変えた。そこは初めて立つ場所。早い流れに向かってのアップクロス、超高速のハードツィッチン。ハイパーブレイクのティップの戻りの早さを最大限に活かす。5投ほどしたが出ない。もっと底かな・・・。一旦狙うタナを流れの芯からはずしてみようか・・・。しっかり逆光で水面は見えないが、あの流れで瀬尻の肩を狙うにはココしかない。さらに1投目・・・2投目・・・3投目・・・。ゴッと根掛かりのようなアタリ!迷い無く即合わせを入れる。ズシッと重さが伝わる。ドラッグがズリズリと引き出される。水面が光って魚は全く見えないが、じわじわと魚との距離を詰め、足元まで寄せ、ネットで掬う時、初めて魚の姿を見た。綺麗だ!水面に浮上し、空気を吸ったヤマメに迷いなく一気にネットイン!横たわったヤマメはなんとも言えない色を備えた美しいヤマメ。何も言うことは無い達成感。最後の最後で今期一番の魚に出会えた。釣れると安心して置いてきた家族を思ってしまう。(笑)この一匹は家族あっての賜物。この場を借りて嫁さんに・・・ありがとうと。

ROD:HBB60MS

ハイパーブレイク
ブランクカラー：クリア

HBB60MS　Taper design F → M

写真のロッドは「HBB60MS」、グリップタイプG-II「シャム柿」。表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。オプションやロッドの注文の仕方は24頁を参照ください。

Hyper Breake **HBB60MS**

Lure weight 3~10g,Line class 4~6lb,Grip:Semi Double(END 140mm),Titan Y-Guide

本流の40オーバーのヤマメを狙うのに渓流ロッドのように軽く、パワーを備えたロッドが欲しい。そう言う要望から生まれたのがハイパーブレイクです。このロッドは7ftクラスのロッドでは出せない多彩なアクションを刻むことが出来る。テーパーは繊細なソフトティップにハードバットのファーストデザイン。源流ロッドと本流ロッドの融合から生まれたこのロッドは意外にも汎用性の高いロッドとなった。事実、渓流の大イワナや本流の40cm超の大ヤマメ、北海道のワイルドレインボー、アメマスなどをこのロッドですでに手中にしている。まさに新たな渓流スタンダードロッドの誕生だ。

KOUHEI KADOWAKI

ハイパーブレイクはいつも奇跡を起こす。トラッド50を襲った東北のサクラマス。

本流ショートロッドスタイル
待った甲斐があった。今年最後に40cmの完璧なヤマメに出逢う。ミノーはトラッドミノー78mmヘヴィシンキング、若鮎。

REVOLUTION ― レボリューション ―
その先にある世界。

文と写真：佐野孝

パックロッドには夢があると思う。なんて書きだすとまるで頭の中がお花畑になってるヒトみたいだけど、そう思えるのだから仕方がない。気が付けばトラウトに限らず僕の常用ロッドは殆どがパックロッドになりつつある。だから、最近の僕の釣りはいつもピースを慎重に組み立てるところから始まるのだ。考えてみると昔からギミックものが好きだった。ほら、昔の外国アクション映画などでよくあったでしょう。ビルの屋上でスナイパーが小ぶりのアタッシュケースから小さなパーツをいくつも取り出してカチリカチリと組み立てていくと、最後にはスコープ付きのカッコいいライフルが出来上がるというやつ。ああいう組み立てシーンに激しく胸躍らせていた少年だった。おそらく僕のパックロッド好きはあのへんからきているのだと思う。パックロッドというと、少し前まではロッドとしての機能やルックスよりとにかく携行性を優先してロッドを分割してみました的なモノが多かったように思う。その頃のパックロッドにはなんだか仕方なしの代替品という香りがあって、あまり魅力を感じなかった。けれど釣り道具の進化も日進月歩。現代のパックロッドはもう単なる代替品じゃない。ロッドの調子も殆ど違和感がないし、カチリカチリと精巧なパーツを組み立てるあの感覚もちゃんとある。さらにはロッドケースを含めてそのルックスまでカッコいい。マルチピースとして1つの地位を確立したパックロッドは、この10年でもっとも進化したタックルの1つじゃないかと思う。もちろん厳密な意味では1ピースや2ピースのロッドと同性能とはいかないのだろうが、それでもそれを補って余りある良さがパックロッドにはある。それはもちろん高巻きやへつり越えなどで簡単にバラしてザックに収納できるようなダイレクトな利点もあるけど、決してそれだけじゃ

ROD:RB52MS-4

写真のロッドは「RB52MS-4」、グリップタイプ G-II「花梨瘤（紅）」。表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。

Revolution RB48LS ☆BEZEL 対応機種

Lure weight 1~7g,Line class 3~6lb,Grip:Single(END 100mm),Titan Y–Guide

狭小な渓流、つまり源流と呼ばれるエリアにも大物はいます。RB48LSはまさに源流の大物を狙うアングラーにこそ相応しい。クモの巣を避け、川に垂れた笹薮をすり抜けてキャスト。倒木を交わしながら大岩の後ろに隠れてティップだけでキャストするシーンなどがこのロッドの出番です。そして短い距離に打ち込んで、すかさず真下に向けてトウイッチしても水面を打たないレングス。さらにバットはレボリューション然るべき強さを備え、40オーバーの大イワナ、尺越えのヤマメ、またはサクラマス、レインボー、アメマスがロッドを引ったくってもあなたは狼狽えることはありません。

TADAYUKI ICHIKAWA

ストリーム３０に納まる銀鱗は４０cmを超える。彼の釣るヤマメはいつもデカイ。

Revolution RB55MS ☆BEZEL 対応機種

Lure weight 2~9g,Line class 3~6lb,Grip : Single(END 100mm),Titan Y–Guide

日本全国の一般的な渓流と呼ばれるエリアのほぼ全般を狙うことが出来るのがこのRB55MSです。絶妙なティップは別名バックハンドスペシャルとも呼ばれ、それはソフトティップが生んだ新たな効果でした。つまり大振りなティップのロール動作を必要としないので3.5g前後を主体のルアーを美しく、そして正確にバックハンドキャストが出来ます。またこのロッドのシングルハンドのRB55MS、セミダブルハンドのRB58MSのモデルが生まれた背景にはこのロッドの完成度の高さを示すものです。余談ですが、中流でこのロッドを使い、40ヤマメを狙って獲るアングラーから後のハイパーブレイクが生まれました。

SATOSHI SASABUCHI

仏料理・樹業亭シェフ笹淵は鱒料理も得意だが、この大ヤマメは淵に戻した。

Revolution RB62MS

Lure weight 3~10g,Line class 4~8lb,Grip:S.Double(END 180mm),Titan Y–Guide

例えばボートからのランドロックサクラマス狙いや本流の戻りヤマメ、サツキマスを相手にテクニックを駆使して狙う方へオススメする攻撃力のある6フィートだ。また湖のインレットから入渓する際に、はじめはある程度広い川幅で釣り上がり、しばらくすると狭小な小渓流に変化するフィールドでもこのレングスが重宝する。絶妙なレボ独特のファーストテーパーデザインはこうした時に変化するミノーやスプーンの幅広い重さにも難なく対応するはずだ。さらにRB62MSの小さな渓魚でも弾かないソフトティップが有り難いし、ミッドからバットのパワーは40オーバーの鱒にも十分に対応する。

KOUICHI MAKINO

EXILEのような牧野は62とカージナルで盛夏の大ヤマメを次々と手にした。

Revolution RB72MHS

Lure weight 3~18g,Line class 6~10lb,Grip:Double(END 220mm),Titan K–Guide

本流の戻りヤマメやサツキマスをミノーイングで狙うアングラーに捧げる1本。レボリューションが掲げるミノーイング専用のファーストテーパーデザインはこのロッドでもパワーアップして発揮される。当然、RB72MHSは強い流れでも確実なトウイッチを可能にしている。またソフトティップで5cmクラスのミノーを綺麗にポイントまで運び、ミッドを上手く利用して重量級ミノーのキャストも可能。それはアングラー次第で使い方を可変させられる点も見逃せない。さらにRB72MHSの強烈なバットパワーは湿原の80cmを超えるイトウや中流のモンスターレインボーもナイロンラインでしっかりと獲らせている。

DAISUKE YAMAGUCHI

本流ヤマメでドスンと来たのはサクラマス。彼は慌てない、狙っていたのだ。

Revolution RB52MS-4 （アルミケース付属） ☆BEZEL 対応機種

Lure weight 2~9g,Line class 3~6lb,Grip:Single(END 100mm),Titan Y–Guide

強くて張りのある実践的パックロッドがなかった。単純ながらこれが開発のきっかけです。パックロッドは偶数分割の4ピース設計。印籠継ぎでコストも掛かるが竿を持って移動する際、身軽に2分割出来ることに拘ったのだ。また3ピースと比べて仕舞寸法はコンパクトに約42cm。バックパックから突き出ることのない長さで、ベスト背面ポケットにすっぽりと収納出来るのが嬉しい。レボリューション独特のファーストデザイン、瞬時フックアップが可能なハイポテンシャルカーボンコンポジットはそのままに再現。ベゼルフェルールの対応も可能なので旅の予備ロッドとしても重宝するはずだ。

MASAYUKI NISHIMURA

暑くとも強烈な竹薮を超え狭小な源流でヤマメを狙うのはこの美しさがあるから。

ROD:RB55MS

レボリューション ブランクカラー：クリアレッド

RB48LS	Taper design F
RB55MS	Taper design F
RB62MS	Taper design F
RB72MHS	Taper design F
RB52MS-4	Taper design F

写真のロッドは「RB55MS」、グリップタイプ G-II「花梨瘤（紅）」。表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。オプションやロッドの注文の仕方は 24 頁を参照ください。

鱒釣りはナイロンだと思う。

TROUT PLUGING 素材：ナイロン 300m

鱒釣り、特に渓流ミノーのキャスト、アクションに徹底的に拘ったナイロンラインがトラウトプラッギンです。最新のラインと比較すればわずかに太い直径は、あえて直結強度と操作性のバランスを熟慮した結果です。それは鱒釣りにおいて最新が最高ではない事実。300m巻きは50m毎にシール付き。だから取り過ぎがありません。

グリーン　　クリアブルー

LB/ 直径（mm）	300m
4LB / 0.165	グリーン クリアブルーの２種
5LB / 0.185	
6LB / 0.205	
8LB / 0.235	
10LB / 0.250	

ない。僕の考えるパックロッドの一番の良さはその気になれば世界のどんな場所でも釣りを持ち込めることだ。いや、それはパックロッドとして当たり前のことだから、むしろ「世界のどんな場所でも釣り人でいられること」と言ったほうが良いかもしれない。釣り人にとってもっともツライのは、旅先ですごく良い川や湖を目前にしているにもかかわらず、自分がロッドを持っていないという状況だと思う。これは本当にコタえる。例えるなら、カラカラの砂漠で目前の冷えたビールに手を出せないとか、絶世の美女を前にして両手を縛られているとか（笑）、なんでもいいけどそのくらいの精神的苦痛が確実にある。その際、移動の途中だとか連れがいるとかで現実的にその場で釣りが出来ない状態にあろうが、そんなことは問題じゃないのである。大切なのはその場でロッドを持っているかいないか。「できない」のと「やらない」のとでは精神のありように天地の差があるのが釣り人なんだと思う。だから、大抵どこに行くにでも旅行バッグの片隅に４ピースのパックロッドを忍ばせる。リールだってカーディナルならかさばらないし、最悪バラして収納することだって出来る。あとはもうお菓子の小箱でも何でもいい、テキトーな入れ物にお気に入りの小型ミノー１つ、スプーン１つを入れとけばもう何も心配はいらない。それだけで、世界のどこへいっても「その気になれば釣っちゃうんだもんね」なアングラーになれる。繋いだマルチピースのその先の世界は、実は自分でも驚くほど長く広く続いているのかも知れない。そう。パックロッドには夢がある、のだ。たとえ釣りができなくとも。そして、たとえ魚が釣れなくとも（笑）

TRADITION — トラディション — 写真協力：numa

ヤマメは渓流のカケラ。

numaの渓流スタイル。バックパックにバックロッド、身動きの取りやすいキャンバスウエーディングシューズにスパッツスタイル、そして泥だらけのJA11。

神話の里・宮崎の山奥の奥、谷底のそのまた深い峡谷がnumaの休日の隠れ家である。彼の渓流釣りには拘りがある。それは釣れる、釣れないではなく、大きい、小さいでもない。それは「いるか、いないか」のヤマメを追い求めているのだ。愛車JA11は宮崎山中の舗装などされていない林道を突き走り、鹿と出会い、猪の崖への突進劇を横目に、時には名もない滝で車は止まる。入渓地点には駐車場らしいものはないから車のボディに木がぶつかりそうになる寸前まで乗り上げて止める。JA11は小さいから万一、車が通っても邪魔にはならない。いやその前に車とすれ違うこともないドン突きの道が殆どである。微かに川の音が聞こえる。はるか下の方に流れる音である。まずは水が流れていることにnumaは安心する。水音の距離で水量が分かる。そこはいつもミノーイングの釣りが成立するか否かの限界のエリアである。numaの釣りの真骨頂である。こんなところを狙うつり人はそういない。まずは地形図とコンパス・高度計を頼りに尾根を下る。時にはスライディングしながら下りるような場所もあるので彼のスタイルはいつもバックパックにパックロッドだ。ウエーダーは履かない。ほぼ山歩きを主体にする彼はいつもスパッツスタイルで身軽にしている。彼の体型はロッククライミングが出来そうなほど絞られている。仕事ではスーツ姿が多い彼だが、夏のワイシャツ姿を見た時、ウエストは学生の頃から変わっていないだろうなと思われた。しかし最近は歳のせいか、寒い日はウエーダーが欲しいなと言い始めたようである。この日のロッドはトラディション4ピース「TR52ULS-4」を選んでみた。彼にはいつも相棒がいる。相棒とは地元宮崎の釣り仲間であるが、メンバーは日替わりならぬ、休み替わりに変わる。だが誰かがいつも一緒にいる。いつも彼とは誰もが行きたがるのだ。それは彼のセンスが人を惹き付けている。彼と行くと誰も踏み入ったことのない場所に行ったり、少年時代を思い出す楽しいことがいつも待っているのだ。もっとも単独で行くには危険な場所も多いのでバディシステムは山岳渓流の基本スタイルと言えるだろう。源流の水辺に立ち、彼は安心した。それは深呼吸をしたくなるほどの緑の世界が広がっていた。おおよそ普通の人では苔むした原生林として見えるだろうが彼にとっ

写真のロッドは「TR52ULS-4」、グリップタイプG-IV「花梨瘤(紅白)」。※アルミケース付属。
表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。

Tradition

週末のnumaの場所。結婚してから山泊まりはめっきり減ったが、それでも夏には仲間の誰かが企画して無理矢理行くことになる。

ROD:TR55ULS

トラディション
ブランクカラー：マスタードイエロー

TR55ULS	Taper design M
TR66LS	Taper design M
TR66MS	Taper design M
TR52ULS-4	Taper design M

写真のロッドは「TR55ULS」、グリップタイプG-II「花梨葡萄杢（紅白）」。表示価格はチタンガイド装着の標準仕様の価格です。オプションやロッドの注文の仕方は24頁を参照ください。

Tradition TR55ULS ☆BEZEL対応機種

Lure weight 1~7g,Line class 3~6lb,Grip:Single(END 100mm),Titan Y-Guide

渓流釣師の中には釣った渓魚をリリースする前提でシングルフックやバーブレスフックを選ぶアングラーは多いものです。こうしたセッティングを好む釣師に固すぎる「瞬殺」ロッドは不要でした。掛けてからキラキラと寄せてくる魚の引きを楽しみ、姿を見たらまた元の淵に戻す。TR55ULSはそうした釣ることや魚との出会いを楽しみとする自然派アングラーにオススメな1本です。だからといってグニャグニャなロッドではありません。5cmシンキングミノーも綺麗に水中で飛ばす最低限の張りを備え、オーバーハングの下にもさっと振り込める戻りの早さを備える現代のトラディショナル渓流ロッドです。

AKIHITO SASAKI
やはりトラディションには懐かしいオールドリール(大森)と美しい渓魚が似合う。

Tradition TR66LS ☆BEZEL対応機種

Lure weight 2~9g,Line class 3~8lb,Grip S.Double(END 180mm),Titan Y-Guide

ダム湖のインレットや中流域での遡上ヤマメ、阜月鱒を狙うのに楽しい1本がこれだ。フローティングミノー、スプーンどちらも扱いやすく、しなやかなアクションは急流のダウンクロスでもミノーをアウトさせず、連続アクション時には適度な張りもある。さらにヒットすると満月のキレイなベンドを魅せて鱒のファイトに惚れ惚れするのだ。いや、かなり曲がって僕らをヒヤヒヤさせるかもしれない。そんな相反要素を可能にした新たなトラディショナルロッド。実績では50cmクラスのレインボーの突進にもロッドはフルベンドしながらもバットパワーは機能を失わず、確実に寄せてきた。

KENJI NOGI
渓流シャッドミノーの開拓者・野木がクリアウッドで上げたのは43cmのヤマメだった。

Tradition TR66MS

Lure weight 3~14g,Line class 3~8lb,Grip S.Double(END 180mm),Titan Y-Guide

確実に大物が潜む本流の大淵へヘヴィシンキングミノーやディープダイバーをロングキャストし、掛けた大鱒の突進をトラディション独特のフルベンドで柔軟に受け止めるには柔らかすぎるロッドでは成立しないだろう。つまり同シリーズのTR66LSでは補えなかった張りと強さを追加し、抵抗のあるルアーの操作性を増したのがこのTR66MSだ。このロッドの張りのあるレギュラーテーパーデザインはジャーキングアクションも付けやすく、大淵の底でバイブレーションを使ってみるのも面白い。トラディショナルなトラウトスピンであと少し強さが欲しかったアングラーには特におすすめである。

TOSHIYUKI NOMURA
シンキングペンシル（アタリルアーズ）のスイミングで大アマゴを連続で獲った。

Tradition TR52ULS-4 （アルミケース付属） ☆BEZEL対応機種

Lure weight 1~7g,Line class 3~6lb,Grip:Single(END 100mm),Titan Y-Guide

山岳渓流でバックパックを背負って釣りに出掛けるタフな源流釣師や列車で釣り旅をするフォトグラファー釣師に選んで頂きたいのがこのトラディション4ピースです。しなやかなロッドを好む方に選んで頂きたいレギュラーテーパー設計。パックロッドは偶数分割の4ピース。印籠継ぎでコストも掛かるが竿を持って移動する際、身軽に2分割出来ることにも拘った。また3ピースと比べて仕舞寸法はコンパクトに約42cm。バックパックから突き出さない長さで、ベスト背面ポケットにすっぽりと収納出来るのが嬉しい。ベゼルフェルールの対応も可能なので旅の予備ロッドとしても重宝するはずだ。

numa
苦労して辿り着く源流で出逢うならこんなマダラ濃いヤマメに出逢いたいのだ。

「いたか〜！」思わず嬉しくて声をかけてしまった。緑の谷に緑のヤマメ、これでよろしい、納得の正しいヤマメだ。

ては帰ってきたという印象の場所である。週に一度はここに来たい。ここへ来て彼は自分を取り戻し、都会の生活に戻るはずだ。釣りを始めてほどなく原始の源流から、ヤマメはすぐにｎｕｍａの操るミノーに返事をした。彼の釣るヤマメは同じ九州でも抜群に美しいヤマメを連れてくる。今となっては原種のヤマメを確定するのは難しいことだが、事実、放流の実績も聞かない場所ばかりだから限りなく彼のヤマメは原種だと言いたくなる。いやそうであって欲しい美しいヤマメばかりだ。体色は様々で黒点が大きかったり全く無かったり、パーマークが真丸だったり歪だったりと、とにかく全てがはっきりしていてヌメリが強い。渓流の様々な色の小石に擬態すると言われるヤマメ。美しいのは渓流に溶け込む迷彩色であるから。ヤマメは渓流のカケラなのだ。そして宮崎は紅色のヤマメがよく釣れる。原始の川に棲むことを決め込んだヤマメは銀色にはならないのである。最初に棲む場所。源流のはじめの一滴を知らずして大河を語ることは出来ないのである。彼の源流ヤマメの地図はまだまだ広がりを見せる。

相棒 clamubon。今年もキミとはよ〜遊んだな（笑）

CASKET ROD ORDER SYSTEM
ロッドの作り方

カスケットのトラウトロッドは
お客様のオーダーメイドで
唯一無二な一本を製作いたします。
カスタムオーダー出来る内容は
スペーサーに使う木の種類、
金具のカラー、グリップの設定（G1〜GV）
ができます。

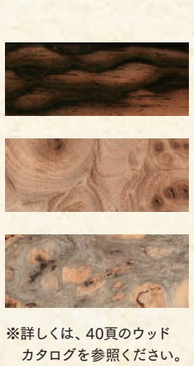
※各ロッドページの掲載価格はグリップタイプ標準仕様G-Iで「+」加算料金なし」設定のウッドを選択された場合の最安価格です。

STEP 1
ブランクを選択

ブランクをお選びください。
ブランクそれぞれの詳細
は紹介ページを参照ください。

STEP 2
ウッドスペーサー
を選択

ウッドスペーサーをお選びください。
カスケットのトラウトロッドの特徴は贅沢な銘木です。
木の種類に関しては40頁のウッドカタログを参照ください。すべての木が常時在庫があるわけではありません。
在庫状況および注文可否につきましては店頭または
ホームページのウッド紹介ページを参照ください。
http://www.club-casket.
com/original/trout/wood/



※詳しくは、40頁のウッド
カタログを参照ください。

STEP 3
スクリューシート（金具）
カラーを3TYPEから選択

スクリューシートの金具カラーをお選びください。
ジュラルミンスクリューシートは硬度のあるクロムメッキを使用。カラーにはシルバーとやや黒みがかったトワイライトクロム、ブラックの3種類がございます。お好きなカラーをお選びください。

［ ブラック ］　［ トワイライトクロム ］　［ シルバー ］

STEP 4
カスタムグリップ
を5TYPEから選択

グリップ仕様をお選びください。
グリップ仕様は5タイプをご用意しています。それぞれの銘木とグリップ設定でロッドに加算料金が発生いたします。ロッド掲載ページの標準価格に表の加算料金を合計した金額がご請求価格となります。

STEP SP
さらに唯一無二を求める
鱒追い人へ

カスケットでは様々なコスメチェンジもご提案します。
それは想いを込める記念のロッドであったり、はたまた友人とは差を付けておきたい下心だったりします。スレッドカラーの変更や職人が編み出すスレッドアートご希望の方はメールまたはお電話で直接お申し込みください。
http://www.club-casket.com/original/trout/rod/special/

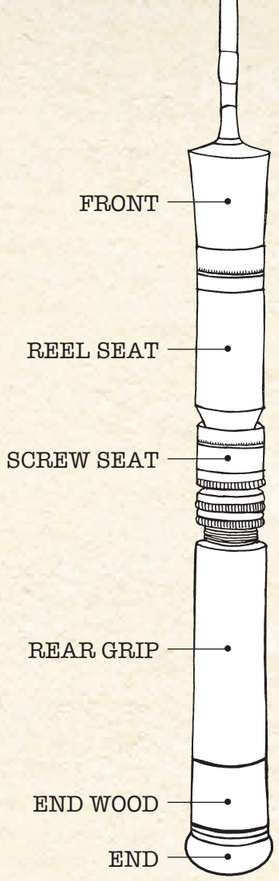
長いグリップのロッドに似合うフラスコエンド（カスタムグリップG-V）ラバーはスコットランド製。

多色を極めるスレッドアートとフェザーインレイオプションであなただけのロッドが出来上がります。

Original Duraimin Triple screw lock

スクリューシート止め部は3連のトリプルロックスクリューシステムになっています。セットしたリールを固定するカスケット独自のシステムです。スクリューシート及びネジ部分に砂やゴミが噛んでいないことを確認してください。リールフットをスペーサーに挿入したら1リングを止まる位置まで押し上げてください。次に2リングはネジなしのフリーリングですのでそのまま押し上げて3リングをねじ込んで止めます。いったん動かなくなるところまでねじ込んだら3リングを動かないように押さえて1リングを下方向に回します。ちょうど2リングを締め合うような具合です。この時スクリューシートは動きませんが力方向が相互に働くことによって取れにくくなります。はずす場合は3リングをしっかりと持って下方向にねじって外します。はずれにくい場合は2リングと一緒に握って回すと外れやすくなります。

注意：決してペンチなどの金属工具でネジを回さないように締めたりしないでください。メッキが剥げたりとれなくなる原因となります。
※傷つきやすいエンドは¥0,000で着脱可能です。



		カスタムグリップタイプ				
		G-I	G-II	G-III	G-IV	G-V
銘木ランク	Aランク	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000
	Bランク	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000
	Cランク	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000
	Dランク	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000
	Eランク	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000
	Fランク	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000	¥0,000

※ウッドの種類は40頁をご参照ください。

BEZEL SYSTEM ― ベゼルシステム ― 開発協力：増田直久

新たなる日本渓流の挑戦。

CHANGEABLE GRIP SYSTEM

渓流・スピニングロッドにおいてブランク着脱式の発想をしたのは我々、カスケットが先駆です。渓流釣りは優雅に見える反面、ロッドの消耗や傷によるダメージは意外にも過酷なものです。特に小渓流でブランクは薮を抜け、時には蜘蛛の巣を払い、キャストでは岩に当たる状況下でしっかり3年は使うと痛んでしまうでしょう。そして禁漁のオフ中にボロボロのブランクを見ると、渓流釣り師は来年の買い替えを考えるものです。しかし通常の竿は銘木のリールシートはブランクに接着されていて再利用が出来ません。使ってこそ価値感のある銘木を長く活かすことは出来ないか?そこでブランクだけを買い替えやすく、銘木のグリップはいつまでも使用出来るように脱着式にすることを考案したのがベゼルグリップシステムです。「ベゼル」とは時計のガラス蓋を止める円盤状のパーツの名前に由来するもので、そのフロントグリップのデザインはシンプルを極め、模様豊かな銘木がまるで時計の文字盤のように美しいデザインで釣り人の目も楽しませます。こうしてブランクが自由に変えられるようになったことで渓流釣り師の多彩な遊び心も次々とロッドに反映させることが可能になりました。

BEZEL
ベゼルが日本の渓流ロッドを変える。

SEMI DOUBLE MODEL　SCREW SEAT : SILVER

SINGLE MODEL　SCREW SEAT : BLACK

SINGLE MODEL　SCREW SEAT : TWILIGHT CHROME

VERY SHORT MODEL　SCREW SEAT : SILVER

VERY SHORT MODEL
（全長：195mm 参考重量：99g）

源流で度々コースを変えながらミノーアクションを駆使するアングラーにオススメの超ショートグリップです。5'5''以下のロッドに最適です。

SINGLE MODEL
（全長：235mm 参考重量：128g）

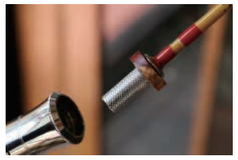
渓流全般、オールマイティに使用出来るグリップ設定です。バランスもよく、重量感はさほど感じないベストバランスです。

SEMI DOUBLE MODEL
（全長：275mm 参考重量：148g）

本流、中流、ボートなどから大鱒を狙うためのセミダブルグリップです。6' を超えるロッドにバランス相性が良いです。

ブランクの着脱方法。

ベゼルグリップのロッドブランクの着脱はフロントキャップを左右に回転させることで簡単に行うことが出来ます。ロッドブランクの根本には金属のコネクターが装着されています。ここにウッドリングをゴムのOリングで挟み込んで固定し、あとはフロントキャップを緩めて中に差し込み、センターを合わせてキャップを締めればブランクが固定されます。Oリングとウッドリング、そして内部で金属のフェルールがしっかりと締め付けられることで操作中のガタツキやすっぽ抜けを防止します。またフロントキャップの締め付けは必ず手で行ってください。くれぐれも締まらないからと言って工具で締め付けたりすると破損の恐れがあります。ブランクを抜くときは逆にキャップを緩めるとブランクの固定が解かれて外れます。ブランクを中央に合わせるにはキャップが止まる直前で回転逆方向にズラしておいて、固定するのに回転する量を念頭に調整してください。



この美しいデザインを長く楽しんで頂くために2011年モデルからベゼルグリップは最も傷が付きやすいエンド金具の脱着交換を標準装備しています。フロントキャップやウッドリングも交換パーツをご用意しています。

※初期モデルにおいてフロントグリップが外れるトラブルが出ましたが、解決パーツをご準備しています。詳しくは店頭までお尋ねください。

BEZEL GRIP PRICE LIST

VERY SHORT MODEL
銘木ランクA・・・・¥00,000
銘木ランクB・・・・¥00,000
銘木ランクC・・・・¥00,000
銘木ランクD・・・・¥00,000
銘木ランクE・・・・¥00,000
銘木ランクF・・・・¥00,000

SINGLE MODEL
銘木ランクA・・・・¥00,000
銘木ランクB・・・・¥00,000
銘木ランクC・・・・¥00,000
銘木ランクD・・・・¥00,000
銘木ランクE・・・・¥00,000
銘木ランクF・・・・¥00,000

SEMI DOUBLE MODEL
銘木ランクA・・・・¥00,000
銘木ランクB・・・・¥00,000
銘木ランクC・・・・¥00,000
銘木ランクD・・・・¥00,000
銘木ランクE・・・・¥00,000
銘木ランクF・・・・¥00,000

※銘木の種類、ランク分類はP40-41を参照ください。

ベゼルならまずは継ぎ目のない１ピースを

Revolution ベゼル専用ブランク｜1ピース・レボリューション［BORON-COMPOSITE］

RB51MS-1,RB55MS-1（BORON）　Lure weight 1~9g,Line class 3~6lb（グリップは価格に含まれません。）

ボロンコンポジット、1&ハーフのレボリューションをベゼル用に1ピースで再現。ソフトティップ＆ハードバットのファーストテーパーは1ピース設計でよりコンセプトが色濃く出たブランクとなった。つまり継ぎ目がなく、無理のないベンドカーブでティップからミッドに繋がる伝達がスムーズになっている。同じコンセプトながら1&ハーフと1ピースの使い分けをしても面白いはずだ。また1ピースモデルはブランクの塗り替えやスレッド変更などにも柔軟に対応している。これは万一折れてもグリップに影響しないことから思い切ったわがままをカタチにしてみるのも楽しい。

Tradition ベゼル専用ブランク｜1ピース・トラディション［BAMBONIA CARBON］

TR51ULS-1,TR56ULS-1,TR510ULS（BAMBONIA CARBON）　Lure weight 1~6g,Line class 3~6lb（グリップは価格に含まれません。）

スプーン、スピナーで釣りまくった懐かしい渓流黎明期を彷彿させるソフトティップ、ライトアクション、パラボリック設計のトラディションを1ピースで再現。継ぎ目がなく、よどみないカーブはついに理想のパラボリックロッドが出来たのだ。このロッドで懐かしい渓流の景色が甦るだろう。また1ピースモデルはブランクの塗り替えやスレッド変更などにも柔軟に対応している。これは万一折れてもグリップに影響しないことから思い切ったわがままやオールドリールとの組み合わせをコーディネートしてみるのも面白いだろう。渓魚とのワルツダンスはこのロッドでさらに楽しい時間となる。

SOLID TIP & HIGH CARBON UNITED BLANK UNITED CARBON　ベゼル専用ブランク｜1ピース・ユナイテッドカーボン［SORID COMPOSITE］

UC55MS（SORID COMPOSIT）　Lure weight 1~7g Line class 3~6lb（グリップは価格に含まれません。）

ソフトティップでハードバットのレボリューションが最近の渓流釣師にもてはやされるのはミノーイングで釣ることに拘る渓流釣師が圧倒的に増えたからだ。しかしこのアクションを表現するにはカーボンの巻き方だけではない。ユナイテッドカーボンはその名の由来通り、ティップにソリッドのカーボンを使用し、チューブラーのカーボンブランクを接続するというユニークな製法で新たな渓流用ファーストテーパーロッドを提案している。結果、メバルブランクにも見られるこの手法によりティップが自然に追従することで、よりキャストのテイクバックが振り込みやすくなり、バラシが激減した。

他社製ブランクでもベゼルは使えます。

ベゼルグリップの活用　［その1］参考例：喜楽バンブーロッド加工｜フェルール接着工賃：¥0,000～

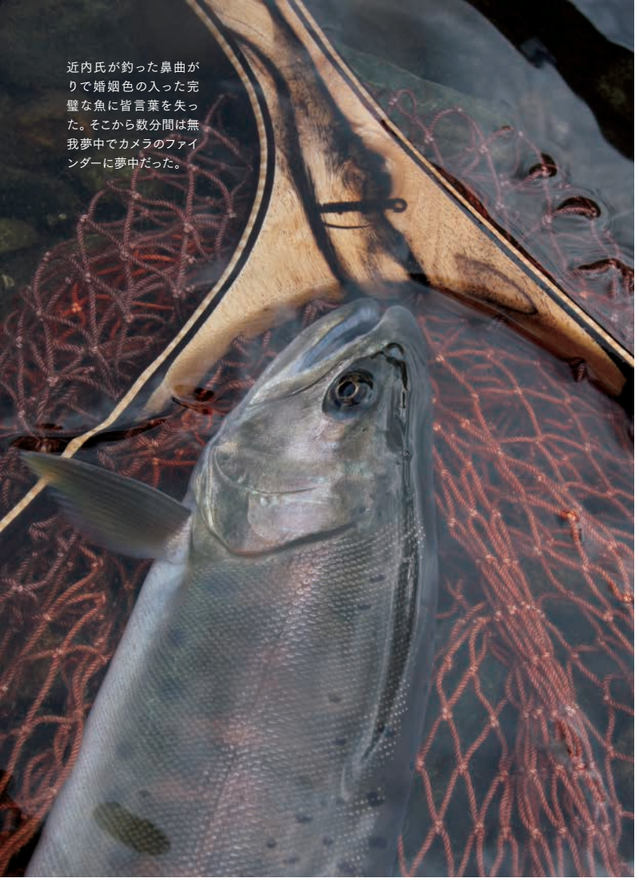
ベゼルグリップはカスケットがラインナップしているロッド以外にも製作が可能です。フェルールの径さえ適合すれば他社製のブランクでも下の写真のバンブーロッドのように使用することが可能です。また傷ついてしまったグリップのロッドをベゼル用に作り直して再活用することも便利で楽しい使い方です。ブランクスルータイプと比較して自重は増しますが渓流用ロッドにおいてそれは無視できるほどのものです。むしろ手元にしっかり重心が来ることで楽にキャスト&トゥイッチアクションを刻むことが出来ます。まだお試しでない方もぜひベゼルシステムを体験してください。

旅先の予備ロッドにもベゼルシステムは最適。

ベゼルグリップの活用　［その2］同寸パックロッドなら2セット持って行ってもプラス重量30g!!

ベゼルグリップの活用は単にロッドブランクを求めやすくなっただけではありません。遠征の予備ロッドも持ち込みやすくなりました。例えば山岳渓流に泊まり込みで奥深く分け入る釣りでロッドが1本というのは少し心細いものです。もちろん、こうした釣りで荷物はあまり増やしたくありません。こんな時に4ピースなどのパックロッドをブランクだけでバックパックに仕込んでおけば安心です。この時の重量はわずか30g前後。ロッドが2本あれば心強いだけでなく対象魚に応じて使い分ける楽しみさえも持ち込めるわけです。

ブランクスルータイプをベゼル専用ブランクにした場合の価格	*Revolution* レボリューション・ブランク		*Tradition* トラディション・ブランク	
	RB48LS ／ ¥00,000	RB55MS ／ ¥00,000	TR55ULS ／ ¥00,000	TR66MS ／ ¥00,000
	RB52MS-4P ／ ¥00,000		TR66LS ／ ¥00,000	TR52ULS-4P ／ ¥00,000



近内氏が釣った鼻曲がりで婚姻色の入った完璧な魚に皆言葉を失った。そこから数分間は無我夢中でカメラのファインダーに夢中だった。

これもリバーランズKのオリジナルカラーのブランクのレボリューション。そう、カージナル33用である。今年は何色を作られるのだろう？

リバーランズKのオリジナルカラーのブランクで本流育ちのシルバーヤマメ。テーマは「夏のトマト」だったらしい。なかなか思いつかない色だ。

「屏風岩」と呼ばれる自然の絶景をバックに男3人で記念写真を撮った。もはや大人の修学旅行である。190cmの宮本氏が小さく見える。

AMBASSADOR REPORT ― カスケットアンバサダー レポート ―

禁漁となった晩秋の会津路を仕事で訪れる度に、夏の男三人の釣り旅を思い出す。

文と写真：永森伸一　協力：リバーランズK、宮本一谷

今年は4月の桜に季節外れの雪が積もり、5月は異常低温が続いた。梅雨期は例年以上にゲリラ豪雨が降ったかと思えば、夏場は記録的な猛暑が続き、気候に泣かされた。9月に入ってようやく猛暑が和らいだので釣友らと「釣り旅」の話題が持ち上がった。やっと禁漁間近になってからである。(笑)これは昨年から仲間内で始めた企画で40を過ぎた男達が年に一度はみんなで一緒に釣りを楽しもうというもの。私も含め釣友らはそれぞれに自宅近くの川を中心に釣りをしているため、いわゆる「遠征」的な釣りに飢えていた。「遠いけど日帰りできて、渓相が良くて、綺麗な鱒が釣れて、郷土料理が味わえる場所」を僕は探した。今回僕が選んだ檜枝岐村は、福島県の南西端に位置し、標高930m、人口700人余りの小さな村で、尾瀬の玄関口として、また日本有数の豪雪地帯としても有名である。私が初めて訪れたのは大学の「表層雪崩に関する研究論文」をまとめる際にここをモデル地として選んだ時だった。その後は、偶然にも初めて仕事で現場を持ったのが檜枝岐川沿いだったので、仕事の合間を見ては「秘境の渓谷」で釣りや近くの露天温泉を楽しんだ記憶が蘇る。秋晴れの朝6時。集合場所には既に釣友の姿があった。一人は白河市でラーメン店を営む宮本君。彼は昨晩も夜中まで営業していたからほんの数時間しか寝てないはずなのに、かなり元気である。もう一人は白河の釣具店「リバーランズ・K」オーナーの近内さん。二人とも今や遅しと、準備万端といった感じだった。早速三人分の荷物を積み込む。三人分だとトランクもあっという間に埋め尽くされる。そしてベゼルで揃えた皆の渓流ロッドが置かれていく。皆、同じようなスタイルが好みなので同じ調子のロッドが欲しくなるが、リバーランズKさんには同じブランクでも特注のブラックやトマト、ライムグリーンと遊び心満載カラーで塗られたベゼルブランクがあって、僕らを満足させてくれる。取り替えることが出来るのもイイ。満タンになったトランクにすっかり僕らは子どもの遠足気分であった。車中のノンストップ釣り談議は、目的の川が見えてようやく終わった。私達は橋の上から渓相を見るや、待ちきれずにこの橋から釣りを始めることにした。私がカメラの準備をしている頃には二人の準備はすべて終わり、ニコニコと無言で僕を急かす。先に行ってくださいと言うと二人は素直に行ってしまった。遅れて私も河原に下りた。そしてこの川特有の押しの強い流れに足を入れた。しかし普段から狭い渓流がメインの私にとって本流での釣りは何処をどのように攻めたらよいか解らず、途中からはカメラマンとして二人の後を追うことにした。同じ渓流釣りでも普段は自己流だから、こうして他人の釣りを見るのは楽しいし、勉強にもなる。色の違う同じロッドをこうやって使うのか、ああやって投げていたのか・・・などこんな機会がなければ知る由もないのだ。いつの間にか速いテンポで釣りをしていた近内さんの姿が見えなくなっていた。すると河原に座る近内さんの姿が見えた。「釣れたんですか～」と声を掛けると「尺かな～」との返事。「ええ～！ リリースは待って～」と慌てて駆け寄り、そこで皆が見たのは黒柿のネットに収まった尺越えの雄山女魚だった。私は今回の旅で「良い魚が釣れなくてもみんなが楽しければ満足」と思っていただけに、三人の思い出に残る一美に出会えたことが嬉しかった。そして近内さんの凄さをあらためて感じた瞬間だった。さて旅の楽しみは魚釣りだけではない。この土地でないと食べることができない「裁ち蕎麦」と「はっとう」を頂く。僕の懐かしい味だ。「裁ち蕎麦」は、そば粉だけを熱湯と水でこね上げ、薄く延ばして何枚も重ねて裁ち切った蕎麦で、その切り方からその名が付いた。「はっとう」は、そば粉ともち米粉同量を熱湯でこね、薄く延ばしてひし形に切ったものを茹でて、砂糖・塩で味付けした「じゅうねん（エゴマ）」をからめたお餅のようなものである。その昔、諸国見廻りの役人が来村の折、米の取れない貧しい村で蕎麦とはっとうをお出しした所、「こんなに美味しいものを平民が食べるのは以ての外・・」とご法度にしたのが名の由来と言われる。どちらも本当に美味しいのだ。禁漁となった今も、私は仕事で会津路を走っている。男三人の夏の旅を思い出しながら川を眺め、つい先日「来年の場所見つけました！有望ポイントの写真送ります。お昼はここのソースカツ丼で決まりです（笑）」と仲間にメールした。ラーメン屋の宮本君からは「来年は私が釣ってきっとカツ丼をおごります！」との返事。年に一度でも釣りに行く仲間がいるって本当に幸せです。

オデッセイの大容量ラゲッジも大人3人の道具でギッシリ。

会津山人の味「裁ち蕎麦」は布を裁つように乱切りの蕎麦。

殿様が祝い日以外は御法度にしたほど美味い「はっとう」。

CONCLUSION — コンクルージョン —

決着という名のネット。

写真協力：小西康博、森園和美、永森伸一

STREAM 30

ウッド：黒柿孔雀杢
ネット：ブルーオリーブグラデーション

源流の尺ヤマメに飽き足らず、本流育ちのサクラマスのようなモンスターヤマメを狙う方、また不意の大型レインボーを警戒する方にこのネットをお勧めします。深めに取ったネットは頭さえ入れてしまえばしっかりと底に落ちて60cmまでは捕獲を成功させる実力の持ち主です。

STREAM 26

ウッド：楠瘤葡萄杢
ネット：ブラウンベージュグラデーション

渓流で1本選ぶなら、まずこのサイズでしょう。尺ヤマメも楽にランディングできる上に25cmを超える立派なヤマメを横たえた時にフレーム部分からはみ出す姿を御覧になれます。もちろん尺ヤマメなら堂々とはみだす尾びれに夢中でカメラを向ける至福の時間をもたらします。

STREAM 23

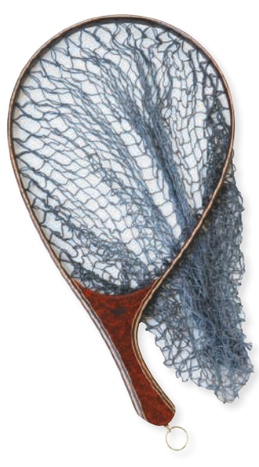
ウッド：極上花梨瘤紅白
ネット：ブラウンベージュグラデーション

源流の渓魚は息を呑むほど美しい。それはまるで絹肌の少女のような存在かもしれません。その姿をカメラに収めることが楽しみな釣り人も多いことでしょう。しかし可憐な美しさとサイズは反比例するものです。見栄えにも拘る欲張りな釣り人のために用意したネットがこのサイズです。

MONSTER

ウッド：花梨瘤（白）
ネットカラー：シルバーピンク

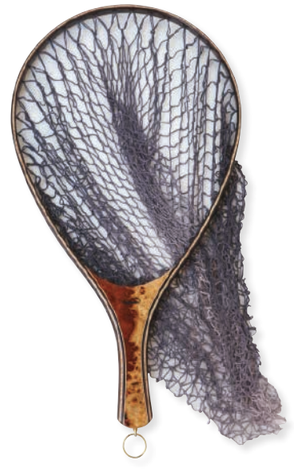
小さなネットでまごまごとしている間に大物を逃した経験のある方、あなたが欲しいネットはこれです。真剣に大物狙いであることを背中で語り、このネットを背中から引き抜く時は必ずや決着の瞬間を手に入れることが出来ます。大型なのにオイルフィニッシュ採用で重量を軽減しています。



BIG TROUT CURVE

ウッド：花梨葡萄杢
ネット：ブルーグラデーション

形状はビッグトラウトサイズと同寸。魚の捕りやすさではストレートだが洒落っ気のあるフィッシャーマンにこのカーブデザインを捧げます。カーブしているとは言え、外周はストレート部分を長く設け、限りなくランディングしやすいよう工夫した職人自慢のリカーブデザインです。



BIG TROUT

ウッド：極上花梨瘤紅白
ネット：ブルーパープルグラデーション

何を隠そう、コンクルージョン元祖モデルがこのモデルなのです。黄金比を極めた美しさはもちろん開発者がネットとして一番欲しかったサイズがビッグトラウトでした。これは北海道のようなフィールドで渓流域なのにとんでもない大物が来るような河川に備える最高の一本です。

魚を捕らえるネットに美しさや趣向性を求めるのは日本人特有の釣り文化であるらしい。しかもそれは鱒釣り師に特に見られる傾向で、いかにも森や木や写真を撮ることが好きな渓流釣師らしい発想だと言える。コンクルージョンを作る職人ももちろん例外ではない。いや尋常ではないくらい木が好きな人間だ。初めてランディングネットの打ち合わせをした時、彼はオイル仕上げの素晴らしさを僕に説いた。それは傷が入っても修復しやすい。磨けば磨くほど艶が出て誰も持っていない経年変化のネットが出来るというもので、僕はウレタン仕上げのツヤツヤも捨てがたいと思っていたのだが、彼が試作で1年使い込んだネットを見て驚いたのだ。もちろん使っているから傷が入っていた。だがその傷が格好良いのだ。しかも一度では出せない輝きの傷になっている。僕は一発で惚れ込んで、彼と一緒にオイルフィニッシュの旗手となろうと決意したのだ。あれから8年、職人はさらに研究を重ね、真空釜を作ったり高温室を作ったり、木を愛する情熱に終わりはないようである。

ウッド／ネットサイズ		モンスター	ビッグトラウト&カーブ	ストリーム30	ストリーム26	ストリーム23
銘木ランク	Aランク	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000
	Bランク	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000
	Cランク	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000
	Dランク	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000
	Eランク	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000
	Fランク	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000	¥00,000

※ウッドの種類は40頁をご参照ください。

AMBASSADOR REPORT ― カスケットアンバサダー レポート ― 文と写真：天野慎也

夏のある日のこと。ねえ、北海道に行ってみない？どうせ釣りするんでしょ？イヤヨ。（きっぱり！）あは・・・（苦笑）

私は九州で渓流釣りを始めてからというもの、自分でも驚くほど一気に鱒族の魅力に心を奪われ、一昨年からは年に2〜3回のペースで北海道の釣旅を友人と楽しんできた。素晴らしい魚たちとの出会いはもちろん、日常から遠く離れた北の大地は雄大で、見るもの触れるもの、そして食べるものすべてに新鮮な感動を覚えるのだ。私は鱒族に魅せられて、改めて旅することの楽しさを実感するようになった。釣友としか出掛けたことのない北海道だが、今度は妻を連れて行って、その素晴らしさを共有したいと思ったのだ。せっかく北海道まで行くのだから、私としてはなんとしてでも釣りがしたい！「釣旅」を渋る妻を口説き落とすため、私はガイドブックを買ってきてリビングに置いてみたり、美しい景色や美味しいものがいっぱいあることなどを話して誘ってみたり。「ねえ、ねえ」と何度も口説き倒してついに「釣りは1日だけ」という条件で、4泊5日の夫婦北海道旅行が決定したのである。10月初旬、飛行機とレンタカーを乗継ぎ、私たちが向かった先は河東郡鹿追町にある然別湖。周囲約14㎞を広葉樹林に囲まれた神秘的なカルデラ湖である。ここは固有種で日本でもここにしかいない美しいミヤベイワナが初心者にも比較的簡単に釣れるというのだ。そしてこの時季は素晴らしい紅葉が楽しめるということで、妻を連れてのんびり釣りを楽しむにはピッタリ！今回、私には目標があった。それは、1尾でもいいから妻にミヤベイワナを釣らせることだ。午前7時、受付けでレギュレーションの説明を受け、朝靄の立ち込める湖面へローボートに妻を乗せ漕ぎ出した。吐く息が白いのを見て、寒がりの妻の機嫌を案じたが、朝日の照らされた眩いばかりの紅葉に感動している様子で一安心。僕に付き合ってくれる嫁さんがいつもより可愛らしく見えた。そんな素晴らしいロケーションの中、二人でルアーを投げてみる。釣りのことなどまったく分らない妻は、ロッドの握り方やリールの巻き方から教えなくてはならない。果たして彼女にミヤベイワナを釣らせることが出来るのか？期待と不安が交錯。意外とすぐに、私に待望のミヤベイワナがヒットした！エメラルドグリーンで縁取られた鮮やかな朱点は息をのむ美しさ。雑誌などでしか見たことのなかったその美しい魚体が、今まさに私の手中にあることに「釣旅」の喜びを実感。いや、本当に美しい、これは九州では見ることの出来ない格別な鱒の美しさである。これで私は一安心した。最初はぎこちない手つきでリールを巻いていた妻も徐々にコツを掴んできた様子。7ｇのスプーンを出来るだけ遠くへ放り投げ、20数えてからゆっくりリールを巻くようにアドバイスをする。「あっ、もしかしたら来たかも♡」と不安そうな妻の声に振り返るとロッドの先がゴンゴンと引っ張られている!?「ゆっくりゆっくり、慎重にリールを巻いて！」「ああああっ、巻きすぎ巻きすぎ！△■×？★」水面一美。そして、私はなぜだか自分が釣ったことよりもずっと嬉しく思えるのでした。調子の出てきた妻は、その後もミヤベイワナを次々に釣り上げていく。一方、その後の私は大苦戦・・・。「あっ、また来た！」「リール巻かせてあげようか？」と、釣れない私に気を遣う余裕まで見せ始めました。（苦笑）いや、いいよ・・（苦々笑）。終わってみれば、私が2尾、妻が6尾という結果!?はじめの心配はどこへやら、しかし悔しくはない、なぜか嬉しい。心からほっとして嬉しい。こんなキモチは釣友と行くときには味わえない不思議な感覚だった。翌日からは妻と約束したドライブで北海道の美しい景色と各地の美味しいものを巡る旅へ。十勝の「豚丼」、小樽の「お寿司」、札幌の「ジンギスカン」などを楽しみ、私も妻も終始笑顔の楽しい「つり旅」となりました。「次は新緑の6月の解禁に行ってみたいな。」「えっ!!」妻の意外な言葉に嬉しさを隠しきれない私。早くも来春が待ち遠しいのであります。

この日ばかりは彼女に釣って欲しい。そう願いながら「釣れなくても記念だよ。」と写真を撮る。しかしこの後、まさか僕より彼女が釣るとは…！？

北海道は九州にはない爽やかな風が吹いていた。僕もいつもと違う目線で彼女といる。よかった、連れてきて。あ、いや着いてきてくれて！(笑)

ほっ！僕にも釣れたのだ。温度に弱いミヤベイワナに一瞬だけ、手を十分に冷やして「だっこ写真」を撮らせてもらう。これで福岡に帰れる〜。

今回は釣りだけでなくニッカウイスキ工場や小樽、十勝の豚丼など十分に旅の楽しみを満喫。嫁が隣にいるとロングドライブもまったく平気だった。

これが逢いたかったミヤベイワナ。
美しく儚いコンクルージョン(決着)

トラブルは乗越えてこそ

写真は屋久杉の木が今まさに「ヤマグルマ」という木に締め殺されかけている状態です。
この時のヤマグルマをはねのけた傷がいつか修復し、隆起し、
屋久杉に年輪以外の模様、つまり「木の宝石」と呼ばれる瘤模様が形成されます。
順調に年輪を重ねた緻密な線模様の板材もそれなりに建築材料としての価値はありますが、
瘤材は装飾・芸術品としての価値を持ち、珍重されます。
「瘤」とは「ガン」とも読む。腐らずに残った瘤材は木の人生において
トラブルを乗り切った証でもあるわけです。
負けて腐っては価値は出ない、乗越えてこそ価値が出る。
そんな木の生き様を思うと、また森からチカラを頂いた気がするのです。

24. ウォルナット杢 *Rank : A*

加工性で定評の高いウォルナットの多くには、栃などと同様に「虎杢(虎の体表の縞模様のような杢)」がしばしば現れる。ダークトーンに浮かぶ杢の揺らぎは、光沢性に乏しい反面、重厚で気品あるコントラストを演出してくれる。衝撃吸収性も高く、銃床材にも使われてきた「世界三大銘木」のひとつでもある。

19. バーズアイメイプル *Rank : B*

「鳥の眼」のような模様を称してBiard's eye(バーズ・アイ)と呼ばれるこの杢は、メイプル(楓/カエデ)に出る模様として有名。装飾材として車や楽器、家具などに多く使用され、日本でも非常に馴染みの深い素材。明るく光沢のある樹色と立体感のある杢は、使い手の気分をも明るくさせてくれる。

14. 楠杢神代 *Rank : C*

紅・朱・桃色に彩られた楠瘤が「艶やかな和風テイスト」と評するなら、楠杢の神代は茶室の調度品の如く「審美で落ち着いた上品さ」を放つ渋めの素材と言えよう。埋もれ木の重厚感に加えて、柔らかく波打つ杢から滲み出る金色の光沢が高貴な味わいを演出してくれる。クールなトーンを好む釣り人には外せない希少材だ。

25. ゼブラウッド *Rank : A*

柾目に見られる白と茶の縞柄が象徴的で、シマウマを連想させる柄がその名の呼称となった。緻密な縞柄はこの樹種にしか見られない特徴的なもので、「杢」とはまた違った魅力を演出している。初期コンクルージョンより導入後、明るい配色でまとめた作風は、現在もAランクのメイン素材として人気が根強くロングセラー。

20. カーリーメイプル *Rank : B*

バーズアイメイプルと同様に、日本では馴染み深い装飾材。同じカーリー(縮み杢)では栃の方が派手だが、構造材としてのポテンシャルはメイプルに軍配が上がる。メイプルはアメリカ原産だが日本の楓(カエデ)も同樹種。またヨーロッパでは「シカモア」と呼ばれ、世界中で親しまれている優秀な構造材&装飾材である。

15. マーブルウッド瘤 *Rank : C*

落ち着いた淡色オリーブの下地に咲くオレンジ色の瘤杢の原産は東南アジア。独特のトーンとコントラストは、この樹種特有のオリエンタルなもの。光沢性が非常に高く、栃に似た絹糸のような光沢を持つ。オイル・ウレタン仕上げ双方ともに美しい仕上がりを期待でき、塗装方法も選ばない。

26. 花梨杢 *Rank : A*

マメ科の樹木には緻密で狂いの少ないものが多いが、花梨ほど日本の文化に馴染んだ外材(国外からの輸入材)は無いかも知れない。赤い心材を持つ樹種は他に欅などもあるが、鮮烈な「赤」といえばこれに勝る樹種は無いだろう。リボン杢と呼ばれる帯状の縮み杢や、玉杢などが古い工芸品でも多く使われてきた。

21. タモ玉杢 *Rank : B*

3D映像のように浮き上がる球形の杢は「玉杢」と呼ばれる。導管のうねりによって樹皮は激しく波打ち、この凹凸から生み出される杢は想像以上に深く、その立体感に思わず手を触れて確かめたくなる。また、神代色などの渋めのトーンに染めたタモは、一般工芸家をはじめカスタムナイフのハンドル材にまで採用されている。

16. ニレ瘤 *Rank : B*

コーヒー豆のようなブラウン系の瘤杢が個性的。落ちついた色調でありながら木目は欅のようにダイナミックで、杢・木目ともに目を楽しませてくれる。光沢反射よりは模様や色のコントラストを楽しむのに向いており、ネット・リールシートにおいては渋い味わいを演出できる素材。

27. メイプル杢 *Rank : A*

北米ではメイプル、ヨーロッパではシカモア、そして日本では楓(カエデ)。「蛙の手」のような葉(モミジの葉)から、その名が付いて変化し、「カエルノテ」→「カエデ」となった説もある。日本の木材文化の中でも古くから愛され使われ続けてきたこの木は、実は「ワールドワイドな木」でもあった。

22. 栃縮杢 *Rank : B*

白木の杢の材として、その杢の深さと美しさで他の追従を許さない栃。山脈のように聳え立つような深くてエッジの効いた縮み杢に魅せられる人は多い。経年変化で狐色に焼けた栃の色調は、コントラストも強まり格別の美しさ。極上の縮み杢は年々流通量が減少し、その貴重性は高まる一方である。

17. 樺瘤 *Rank : B*

その堅牢性と光沢反射の美しさから、日本では栃瘤と並び装飾材として長年使われ続けてきた。白木の瘤材としては栃よりも緻密で硬く、オイルとの相性も良いことから、コンクルージョン初期モデルより採用。加工性も良く、機能と美しさを兼ね備える数少ない国産天然素材でもある。

28. 栗杢 *Rank : A*

狂いが少なく耐水特性に優れた素材。朴(ホオ)に似た淡いオリーブ色は、国産材でも珍しい樹色。地味さが周囲を引き立てることもあり、派手を好まないアースカラー好みのアングラーに支持されている。古くから建築業界では、家の土台や柱などに好んで用いられ、落ち着いた風合いは今でも根強い人気である。

23. 黒檀 *Rank : B*

黒い樹木では周知の材。黒さと同時に狂いの出ない安定性をも備え、定規やジグに使われたりもする側面から、「木材を超えた木材」と言っても良い。周囲の素材を引き立てながらも独自の個性を主張できる「黒」の特権を担って、仏具・工芸品・嗜好品などあらゆる分野で重宝される様は、他に類を見ない。

18. ブビンガ玉杢 *Rank : B*

極太の樹径に育つ東南アジアの広葉樹で、花梨と並んで家具や調度品に使用されることが多い。樹色も良好で、濃い紅(くれない)色の発色が特に素晴らしい。玉杢のブビンガは、木目の交錯と杢の反射光沢が掛け合わされて、まるで瘤杢さながらの味わいながら、特有のテイストを持つ。

9. ブラックウォルナット瘤 *Rank : D*

原産は主にアメリカ東海岸。クラロウォルナットと並んで双璧を成すダークブラウンの樹種は、アメリカでも日本でも人気の樹種。特に日本ではウォルナットを配した無垢の家具が近年ブームとなっており、原木価格の高騰にも拍車がかかっている。ダークブラウンの瘤という希少性はこの木の人気を不動のものにしている。

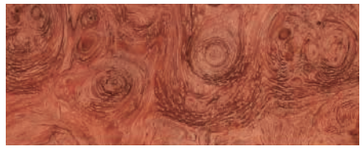
5. 花梨葡萄杢 *Rank : D*

葡萄の房のように瘤杢が隙間無く散りばめられた「葡萄杢(ぶどうもく)」。瘤杢の中でもなかなかお目にかかれないハイグレードな逸材は、花梨瘤の最高グレードに位置する。非常に狂いの少ない優れた樹種だが、緻密な葡萄杢は近年非常に少なくなってきている。想い入れのある道具にこそ是非使って欲しい素材である。

1. 黒柿孔雀杢 *Rank : F*

もはや幻となりつつある「孔雀の羽」のような模様を持つこの逸材は、木のことを良く知らない人でも一度は耳にしたことがあるだろう。孔雀杢は古来より日本の伝統工芸に携わる職人達の心を捉えて離さない素材でもあった。僅かに流通する希少な部位から、更に最良を選び抜いた孔雀杢は、正にデッドストックプレミアム。

10. 花梨瘤(紅,橙) *Rank : D,B*



赤色の瘤材の中で一際人気の高い東南アジアの瘤。緻密な瘤杢が密集する「葡萄杢(ぶどうもく)」を筆頭に、紅白(赤白)が絡み合う部位など、表情豊かなこの素材は、装飾対象を選ばない。辺材(白太)と心材(赤身)の境界付近は特に色調変化に富み、優雅かつ大胆。「瞳を奪われる」とは正にこのこと。

銘木図鑑

Precious wood Casket Selection

11. 花梨瘤(白) *Rank : B*

花梨瘤の周囲を皮下組織のように覆う白い部位「白太(しらた)」。その杢は複雑、密であることも多い。樹皮近くの部位は菌に侵され複雑な模様が出ることもあり、心材至上主義の価値観では語れない魅力も白太の個性と言える。白太は通常、乾燥中に朽ちたり、虫に喰われて使える素材を確保することは容易ではない。

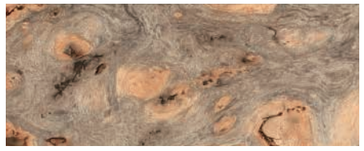
6. シャム柿 *Rank : D*

黒柿と並んで好まれるこの素材は実は既にデッドストックとなっており、流通するシャム柿のほとんどは「ジルコーテ」と呼ばれる近似種。モノトーンでありながらエキゾチックな模様を魅せてくれる緻密で複雑な木目の多くは、玉杢と重なり合って出ることも多く、黒柿とはまた違った魅力を不動のものにしている。

2. 黒柿 *Rank : E*

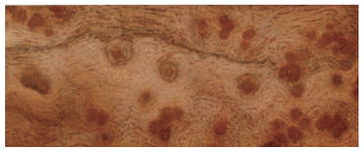
国内人気最高峰の「孔雀杢」は黒柿特有の杢であり、日本の銘木史にも語り継がれる希少材。黒白の縞柄を有する「縞柿」も、特有の「侘び寂び」を演出する人気樹種。伝統工芸から日用品まで、あらゆる装飾に用いてその価値を高めるこの素材は、国内筆頭に挙げられる銘木(めいぼく)中の銘木と言える。

12. 極上花梨瘤(青白) *Rank : D*



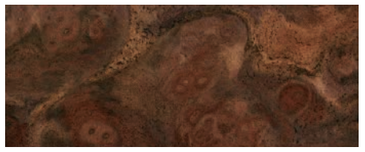
白太(しらた)部位に現れる幻想的なマーブル模様は、青縞と呼ばれる変色部位のこと。大理石の様で非常に美しい模様だが、元来材木業界では忌み嫌われる性質のものだったがカスケット木工部がその魅力を発掘したと言える。常識に囚われず、木の魅力をすべて活かしきることを求めてこそ提供できる個性的な素材だ。

7. 楠瘤葡萄杢 *Rank : D*



楠瘤の瘤杢緻密版。元々大柄な杢である楠において、このようなギッシリ瘤の詰まった杢はそうそうあるものではない。朱や桃色と呼ぶべき和風テイストな色合いの濃淡は、楠瘤特有の雰囲気を備えており、梅の木の花見風景を髣髴とさせる。艶やかで日本らしい風合いを持つ美しい樹木の代表と言って過言ではないだろう。

3. クラロウォルナット瘤 *Rank : E*

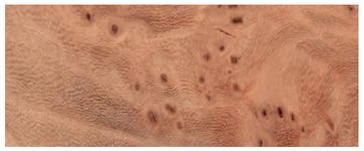


アメリカ西海岸に分布するウォルナット。その多くは家具などの高級装飾材として突板用に加工され、一般市場には殆ど流通していない。また高級車ジャガーのインパネにも採用された素材でもある。色調はやや明るめにくすんだブラウンでクリーム色や紫色など部位それぞれが複雑に混じり合い魅力的な銘木である。

13. 神代ケヤキ *Rank : C*

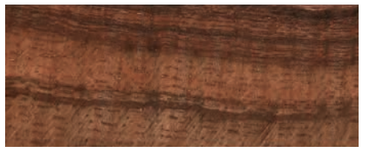
「神代」とは神話の時代の象徴。材木に於いては、千年以上土中に埋もれていた木のことを指す。空気に触れることで色の変化と共に割れや反りを生じやすく、乾燥の難しい木でもある。脆い神代が多い中、緻密な木目の神代欅は、特有のトーンと重厚さで「侘び寂び」をこの時代に伝えてくれる。

8. ブラックアッシュ瘤 *Rank : D*



アメリカ原産の広葉樹で、木目は日本の楡(にれ)・欅(けやき)にも似る。茶褐色の樹色は合わせる素材の色を選ばないため、初期コンクルージョンでは多くのファンに愛されてきた。瘤杢部位は極めて希少且つ入手は困難。一見、瘤杢の派手さは無いが絶妙な茶褐色が上品な高級菓子のようで、飽きのこない素材である。

4. ハワイアンコア極上杢 *Rank : E*



ハワイを代表する楽器「ウクレレ」素材を筆頭に、ギターの高級素材としても世界的にも有名な樹種。極上のカーリー(縮み杢)素材は、マニアの羨望の的であり、ブラウンカラーが絶妙に揺らぐ様は他に類を見ないテイスト。ハワイ条例の輸出制限により入手が困難となっている希少材。

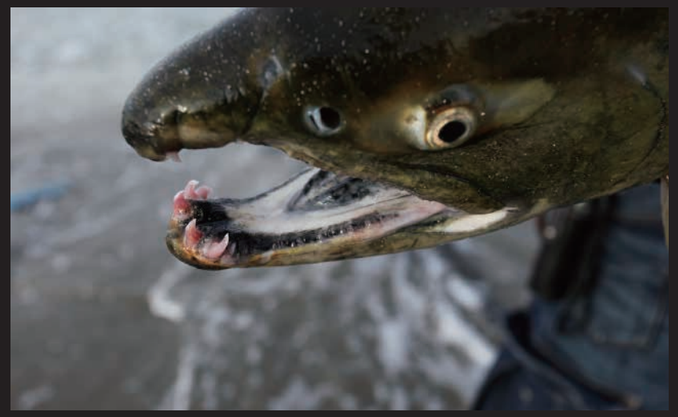
海のチカラ

大海原に閃光が走り、白い魚体が狂う。水は怒りで炸裂し、固く締めたはずのリールドラグが一気に叫び声を上げる。渾身の力を持ってもリールの逆走音は止まらない。一瞬、つり人は放心してしまったが、すぐに我に返った。ロッドを握り直し、自分の力と結んだ糸の強さを信じてこの突進を止めにかかるのだ。いつも思う。海のチカラはこんなにも強いのかと。僕は試されている。このチカラに勝てるか？お前はこの魚を手にするに値するのかと。鱒が源流の川から大海原へ出るように、私たちは海へ出た。そこには無限にも思える海のチカラが待っていた。僕らはいかに振る舞い、いかに諦め、いかに克服するのかを、自問する。確かめる。腕を磨く、夢を持つ。蒸発した水は山に冷やされ雨になり、川になる。すべての循環を自然から感じることが出来れば、争いは消えるだろう。川は血脈、海は心臓。そして自然の大きなチカラを見るはずだ。つり人よ、海へ出よ。

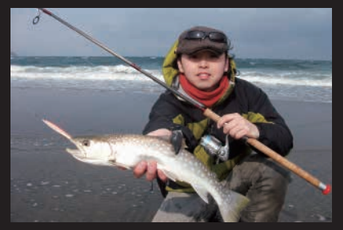
SALTY SPEYSIDE — ソルティスペイサイド —

大海を知る巨大鱒を捉えよ。

取材協力・中島茂俊、生田雅和、石田博昭



海に目を向ければ北海道の鱒はほぼ一年中がシーズンとなった。可憐な渓魚の印象とは裏腹に鮭の最後は戦うために猛獣となる。産卵のため捕食行動は失われているが、わずかな本能刺激で口を使わせた。



石田が投げたエンドウクラフトのジグが遥か沖を回遊していた春の海アメを連れてくる。

早くからシートラウトに着目した中島。俺が釣りたいのはこんなブナじゃないと速攻リリース。

カラフトマスの有効調査に福岡から生田が望んだ。カラフトマスはセッパリと呼ばれる婚姻の変形が有名だが最後まで美しい色を失わない姿に感動した。ロッドはSSP89XHS。

ソルティスペイサイド
ブランクカラー：アンサンドフィニッシュ

SSP89XHS	Taper design F → M
SSP97ZHS	Taper design F → M

写真のロッドは「SSP97ZHS」ガイド設定、グリップの長さは体型に応じて好みにカスタマイズすることことが出来ます。お問い合わせください。

Salty Speyside SSP89XHS-BS

LENGTH:8ft 9inch,LURE:7~35g,PE MAX:2G,GRIP:F-100mm/DPS18LF-UL/R-320mm, WEIGHT:200g,GUIDE:Titan-KLSG

厳寒期の海サクラやアメマス、湖の鱒釣りは過酷である。強風が吹き荒れることはほとんどで、ガイドは凍る。そんなハードな使用に耐えて集中力を保てる大鱒用トラウトロッドの開発に取り組んだ。すでに海鱒狙いでも定評のあったモンスターロッド・スペイサイドSPB92XHSがこのロッドのベースであり、逆風下でのキャストに強く、PE使用を念頭に張りと強度をアップさせた。またEVAグリップのブラックスパルタン仕様により塩水での使用におけるメンテナンス性や手が冷たくならない効果など、より実践的なロッドに仕上がっている。インヴァーとは河口の意で川鱸、鮒、サワラなど近海のターゲットも狙える。

Salty Speyside SSP97ZHS-BS

LENGTH:9ft 7inch,LURE:10~45g,PE MAX:2G,GRIP:F-120mm/DPS18LF-UL/R-370mm, WEIGHT:226g,GUIDE:Titan-KLSG

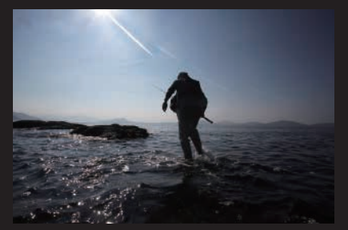
初代ソルティスペイサイドSSP96ZHSを完全リニューアル。ティップとバットの設計を大幅に見直し、より海鱒を狙いやすくなった。まず逆風下でのキャストに強くなった。そしてジグはもちろん、50gのプラグや北海道伝統の浮きルアーのキャストも難なく出来る。ティップは鱒をファイト中に痛めないよう設計。オンコリンクスと命名して鱒用を謳う。また97のレングスは荒れたサーフでも波を越してロングキャスト、やり取りが出来る。また小型魚なら抜き上げも可能なパワーを盛り込み、磯での使用ではさらに安心して取り込みが出来るはずだ。サーフや磯、防波堤において鱸、鮒、など近海のターゲットも狙える。

SALTY SPEYSIDE — ソルティスペイサイド —

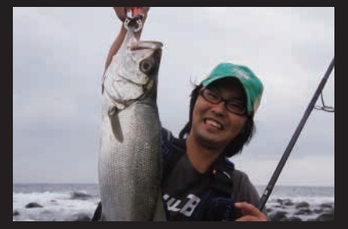
荒磯の一瞬の好機を逃すな。

取材協力：桜井夏樹、本田祐一

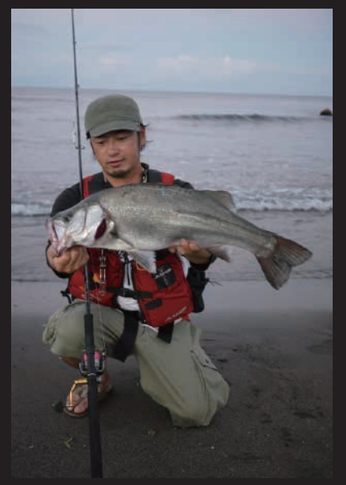
磯の鱸は勝負が早い。釣れる時は数投、そして掛けてからも遊ぶ余裕はない。もう少し、体力をつけて、次はメーターを獲る。



磯はまったくやり取りが違う。次こそはトップだ。



息を吸って精神統一。なぜなら磯の答えは一発目だ。強烈なバイトを106が受け止めてあっさりと勝負を決めた。



徹夜の仕事に朝はサーフィン。眠るかと思えばロッドを振ってサーフのヒラスズキ。鹿児島の桜井は遊びの天才である。

ソルティスペイサイド
ブランクカラー：アンサンドフィニッシュ

SSP96ZⅡHS	Taper design M
SSP106ZⅢHS	Taper design M

写真のロッドは「SSP96ZⅡHS」ガイド設定、グリップの長さは体型に応じて好みにカスタマイズすることことが出来ます。お問い合わせください。

Salty Speyside SSP96ZⅡHS-BS

LENGTH:9ft 6inch,PLUG:20~60g,JIG MAX:80g,PE MAX:3G,DRAG MAX:4kg
GRIP:F-120mm/DPS18LF-UL/R-370mm,WEIGHT:260g,GUIDE:Titan-KWSG

荒れる磯のヒラスズキ、ヒラマサの誘い出しを可能にするパワーゲームのSSP96ZIIHS。名前のMoray（マリー）とはスペイサイドが注ぐマリー湾から由来。よって湾岸部、磯、サーフのあらゆる海のフィールドで汎用性の高いロッドを目指した。特に足場の高い場所でのトップウオーターペンシルの誘い出しの演出は難しいものだが、このロッドなら足下まできっちりとエラーアクションを起さずに引くことが出来る。また磯場や港湾でのショアジギングにも最高である。とにかく疲れずにしゃくることが出来る。ジグのキャストマックスは80gと逆風キャストやラフなやり取りに相当なトルクが求められるシーンにも余裕の対応が出来る。

Salty Speyside SSP106ZⅢHS-BS

LENGTH:10ft 6inch,PLUG:30~80g,JIG MAX:100g,PE MAX:3G,DRAG MAX:6kg
GRIP:F-150mm/DPS18LF-UL/R-425mm,WEIGHT:330g,GUIDE:Titan-KWSG

離島や磯のヘヴィタックルをお望みの方にはこの1本。通称 Arran（アラン）。アイルランド西のアラン諸島に由来する磯用タフロッド。磯の大型ヒラスズキや青物を強引にファイト、ランディング出来るロッドとして開発。ジグも60g～100gを主体に使用することを前提に、トルクフルに仕上げ、ラバーエンドのバランスの効果で持ち重りも軽減させている。特に誘い出しのアクションを足下まできっちりエラーさせずに引くことが出来、もちろんバットパワーは大型青物にも十分対峙出来るパワーを秘めている。やり取りはガチガチではない極限の粘り強さを備えているのでこのロッドを信じて思い切って勝負を掛けて欲しい。

BUGATTI BLUE — ブガッティブルー・オフショア —

とてつもない力のヒラマサを水面で釣る。

取材協力：KRUISE 赤間慶太、久下健二

紺碧の海中から大きな魚体が浮いてくる。この強さはヒラマサだ。奴にはここから海底まで持って行かれて切られたこともある。ヒラマサには少しの油断も許されないのだ。

水面を割るヒラマサはデカイのだ。延々から一瞬の勝負。PGNダーターはイカベイトの時に強い。

赤間船長が操るクルーズのヒラマサキャッチ率は驚異的。玄界灘ガイド　KRUISE　http://kruise.veen.jp

トッププラグを見切ってしまうヒラマサも増えてきた今は如何に誘い出して如何にミスをせずに一匹を上げることが出来るかが重要なのだ。根気もカラダも鍛えなければ、偶然ではトロフィーサイズは獲れない。

ブガッティブルー
ブランクカラー：アンサンドフィニッシュ

BBC77MS	Taper design M
BBC711HS	Taper design M

写真のロッドは「BBC711HS」ガイド設定、グリップの長さは体型に応じて好みにカスタマイズすることことが出来ます。お問い合わせください。

Bugatti Blue BBC77MS

LENGTH:7ft 7inch,PLUG MAX:80g,PE MAX:4G,DRAG MAX:6kg
GRIP:F-150mm/DPS18LF-UL/R-340mm,WEIGHT:316g,GUIDE:EMNSG&Titan-KLSG

玄界灘発祥のヒラマサキャスティングゲーム専用に開発。オフショアのトップウオータータックルにおいて最も出番の多いPE3～4号、60gのプラグに最適。細い3号タックルは飛距離も抜群でプラグを引く距離も長く確率も上がる上、軽くて疲れず、一日中集中力を保つことが出来る。トルクフルなレギュラーテーパーはキャストにおいて驚くような飛距離を出し、必要以上にラインを出さない瞬殺ファイトでもロッドが衝撃を吸収してヒラマサがみるみると浮いてくるのだ。アクションにおいても適度な張りでテンポの速いドッグウオークや綺麗にダイブさせてのスライドアクション、ポッピングなど器用にこなせる。

Bugatti Blue BBC711HS

LENGTH:7ft 11inch,PLUG MAX:120g,PE MAX:6G,DRAG MAX:10kg
GRIP:F-195mm/DPS20LF-UL/R410mm,WEIGHT:384g,GUIDE:EMNSG&Titan-KWSG

60cmのシイラやヤズ（ブリの子）までも捕食する20kg以上のヒラマサが突然、眼前に現れることがある。怯むほど巨大なヒラマサはひと際大きな水柱を上げ、強く締めたリールドラグも簡単に逆転させ、魚とは信じられない力で僕らを海へ引き込む。しかし僕らは恐れずにこのヒラマサに挑むために711を開発した。PE6～8号、プラグも120g前後の大型ペンシルを投げることが可能。しかも30g 程度のシンキングペンシルもキャストできる柔軟性も備えている。バットのハイパワーはマグロだって狙うことが出来るのだ。さらにドラグを10kg以上に設定した強烈なファイトをしてもカラダへの負担を軽減してくれる。次の夢が見えてきた。

SIMPLY ― シンプリー ―

つりに行こうよ、
Let's fish simply!

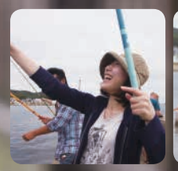
取材協力：四元由紀子、江藤彰信、晴海、ふかみ、やすこ、みほ

振り出しロッド “Simply”

つりの原点と言えば竿と糸だけのシンプルなエサ釣りでしょう。長さは3.6mで軽量、リールがないから子供や女性にもすぐ出来る。しかも初心者だって大物が釣れるかもしれませんよ。まずはつり原点の楽しさをカラフルなシンプリーで提案したいと思います。どこかへ出掛ける時は常に車のトランクに忍ばせてください。フライも持っておくとエサがない場所でも釣りが出来ます。

シンプリー／カラー 5色■ダックブルー■ライム■ネーデルオレンジ■ラズベリー■ソーセージ

全長：3.6m、8本継ぎ専用ロッドソックス付き。



釣れたね。初めてサカナを釣ったね。キミも忘れないだろうけどお父さんはぜったいこの日を忘れないよ。ありがとう。

釣れた魚を食べてみる。食べ物はなんでも生きていたんだよ。
「イタダキマス」って言おうか。

ソト遊びを子供達に伝えたい。自然から学ぶ事の大切さを知っているから絶対にそう思う。この日、成海君パパも、3歳の息子を連れて、はじめて釣りに出かけた。まずは釣らせなきゃ・・・っと管理釣り場のアマゴ釣りをチョイス!ここなら足場も良くて安全、きっと釣れる。はじめての釣りはこの「確実に釣れる」が絶対条件!初回で退屈させたら次がありません。ただでさえ飽きやすい子供に、いかに集中力をきらさずに大満足させるか。「また釣りに行きたい」と言わせる事ができるか。それはパパの威厳を保つ格好のチャンスなのです。釣りに対するママの評価があがれば釣りに行く回数を増やしてもらえるかも・・などパパの打算もありです。(笑)でも泳いでいる魚を釣るって、ゲームのように簡単にはいかない。リセットもできない。だって魚も生きるために必死だもん。スルスルっと伸びたシンプリーの先にある仕掛けのイクラを小さな瞳が追いかける。その視線は可愛くってシャッターチャンスの嵐!!ウキがピクピクっと沈むあの瞬間。竿がしなるとドキッとする。おぼつかないやりとりに手を出していいものか、ソワソワしているパパの姿が1番面白かったり、魚が釣れるたびにコツをつかんでいる子供に驚いたり、嬉しくなったりもする。興味のある事に対する情熱は大人も子供も関係ないんですね。

この日、パパにはもうひとつ教えたかったことがある。それは釣ったお魚を美味しくいただく事。格別な味はもちろん、大切な命を「いただく」という意味。さっきまで自分で釣って生かして遊んだお魚も食べちゃう。漁師さんが捕ってきた魚も、農家の方が丹精込めて作った野菜やお米も、生きていたものなの。だから感謝して「イタダキマス」ね!

れいこ直伝

[大人編]はじめの一歩もシンプリー。

初めてのデートは、映画?ショッピング?いいえ、私ならシンプリーで小物釣りをお勧めいたします。(笑)だって釣りを知らない女性は男性を頼るしかありません。会話に詰まるお二人も釣りなら魚と遊ぶうちに自然と打ち解けて会話も始まりますよね?カスケットでは未婚男女の釣り大会をシンプリーで毎年企画。相手の女性に釣らせようと奮起する男子の姿はなかなかステキです。女性もイヤ〜ンなんて言う人はいない。初めての釣りながら食べられる魚だと目が必死。いや、いい男探すのに必死なのかしら?(笑)未婚の釣り好き男子諸君は時には高尚な趣味の釣りから、こんなシンプルな釣りを女子と楽しんではいかが?

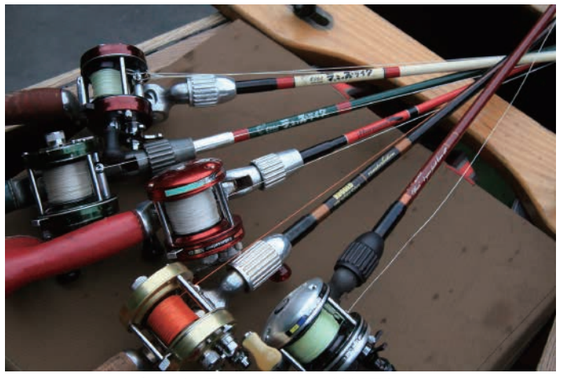
久しぶりのえさ釣りに興奮したのはむしろ僕だった。サカナを目の前にすると、つい本気に・・・(笑)
よし、引いているぞ!!竿をあげて!!

BASS TOPWATER — バストップウオーター —

バスは水面で楽しみたい。

協力：山中清孝、神志那庸一、村野秀樹

カヤックでヒシモを揺らさないよう静かに止めた。パドルを置いてキャスト。うまく入った。ひと呼吸してクラッチをカチンと上げる。ワンアクション目は、強めのダイブを入れた。ポーズ。プカンプカンと波紋が出て、少し待って誘いを入れたルアーがいきなりブラックホールに吸い込まれるように周りの水ごと引きずり込まれた！音はなくサイレントなバイトだったがフッキングをした途端に、バスが重い、異常に重い。バスは菱藻の島に目掛けて逃げ込もうとした。そうはさせまいとロッドを満月にして耐える。カヤックが動いた。確信した、これは大物だ・・・。藻に巻かれまいとしたが強烈な引きで菱藻に入られた。しかしカヤックで少し寄ってカバーの薄いところで絡まったバスを菱藻ごと一気に抜き上げた。この大きさに落ち着いてはいられない。お気に入りのジーパンが汚れることなんて気にせず足元に藻だらけのバスをドサッと横たわらせた。簡単に拳が入りそうな大きな口を掴む手が震え、安心したら笑いがこみ上げてきた。人間って本当に嬉しいと身体が震えるのだ。(笑)バスは計ると58㎝あった。初秋の野池、僕の自己記録である。今回のバスを釣ることが出来たのは第一にカヤックのお陰かもしれない。選んだ釣り場は一面、菱藻だらけで、それを越えながら釣ることになる。そんなカバーエリアも難なく乗り越えていけるカヤックの機動力は本当に魅力的だ。また、カヤックはゆっくりと動くと無音に近いのでプレッシャーを与えにくく近



カスケットのバスロッドブランクを使用してオリジナルロッド製作も可能。
個性的なロッドを作ってみませんか？

夏の釣りはトップウォーター！何度やっても飽きない最もエキサイティングなスタイル。

元気な川バスもヘッドロングのバットパワーには勝てません。
攻めの釣りに打ってつけのロッドです！

手軽に準備が出来るカヤックは魅力的。
バスはシットイン、ソルトはシットオンと用途に合わせて使い分けています。

距離でも十分に釣れる。実は、今はお気に入りのカヤックもずいぶん前から勧められていたが、正直に言うと苦手意識があった。それは落ちたらどうしようとか、漕ぎながら釣りなんて出来るのかと・・・。しかし、実際にカヤックに乗って釣りをやりだすと、そんな苦手意識は吹っ飛んだ！パドルで漕いでいることは、それだけでも爽快であり、エレキとは違う満足感が僕のバス釣りを有意義なものに変えた。それに想像以上の機動力や準備の手軽さなど日本の野池スタイルにピッタリだと思う。また、カヤックにあわせて最近の僕のスタイルに欠かせないのが、カスケットで作るトップウォータープランクスだ。今回使用はカーボン製のロッド・ハープーン。低弾道キャストが得意なロッドなので、着水音も静かに出来てカヤックと組み合わせると鬼に金棒である。だるだるとしていないのでカヤックをどてら流しで動きながらもパンパンと狙うことが出来る。使用出来るルアーウエイトも幅広く1/2〜1ozくらいまでキャストが可能。同時に振り抜けの戻りがシャープなので低い弾道で水面に覆いかぶさる木の下などにもバンバン打ち込める。トップウォーターの釣りはまず、良いポイントに入れることが出来るか出来ないかでは大きく釣果の差が違うはずだ。そこ10cm届かないだけでも釣れないというシビアな状況はカヌーに二人で乗って何度も体験してきた。また、踏ん張りの利き難いカヤックでは、ロッド自体にパワーがあるロッドがフッキングも決まりやすい。カスケットでは昔からカヌー、カヤックの釣りをおススメしているのでラインナップのロッドはほぼこういうスタイルに合うよう設計されています。どうか苦手意識でまだカヤックを手にしていない方もぜひカスケットで僕の話を聞きに来てください。僕のカヤックフィッシングはまだまだ続きます！

フローターやジョンボートでは入り込めないウイードエリアならカヤックの出番です。
スイスイと進めて未開のポイントも独占！？

アカシブランド/オリカラジャックナイフで自己記録を更新。
モンスタークラスのゴツイ顎に見とれてしまう。

HEAVY GAUGE　スウェルバットの信頼性

Headlong! HEAVY GAUGE　HEAVY GAUGE HEAD LONG

オーバーでの低弾道ライナーキャスト、バックハンドやサイドハンドのショートキャストを駆使するバサーにはこの1本です。力強いスウェルバットで1ozクラスの大型プラグを確実に難攻不落のオーバーハングへ送り込みます。少し張りのあるブランクは意のままに瞬時にアクションが可能。当然バイトへの反応も速い。大型のバスが潜むフィールド、タイミングにはヘッドロングが安心です。

HG-HL52　Length 5ft2in,Lure weight 5/8~1oz,モスグリーン

HG-HL56　Length 5ft6in,Lure weight 5/8~1oz,ベージュグレー

Classic HEAVY GAUGE　HEAVY GAUGE CLASSIC

コンセプトはペンシルベイトなどの操作系ルアーをもっと水に絡ませたい。スローテーパーでスタンダードなブランクは、思いのままにルアーを操ることが出来ます。クリアブラウンは光が透過する綺麗なブランクを使用しているので、その名の通りクラシックな気分が味わえ、ナイロンラインでラインスラッグを駆使してアクションさせる拘りのアングラーには、特に気に入って頂けるロッドです。

HG-CL52　Length 5ft2in,Lure weight 5/8~3/4oz,クリアブラウン

HG-CL56　Length 5ft6in,Lure weight 5/8~3/4oz,オレンジタン

ラッキィストライク　戦略的トップウォータースタイル

LS-L56　Length 5ft6in,Lure weight 5/8~3/4oz,ホワイト

カスケットのバスロッドラインナップ中で一番ライトなモデルです。繊細なティップを持ち、ペンシルベイトが特に扱いやすく、5/8oz前後のルアーを扱う時に最も力を発揮します。また、繊細なティップはしょぼいショートバイトも取り易く、シビアな状況でアングラーを助けてくれます。小さいバスでもロッドが良く曲がるので、のんびりとトップウォーターで遊びたい時にオススメの一本です。

LS-M56　Length 5ft6in,Lure weight 3/4~1oz,エッグホワイト

キャスト時はしっかりとタメが効いてキャストフィーリングが気持ちの良いロッドです。
ペンシルベイトからノイジーまでオールマイティーに扱えるブランクなので、いつも一軍ロッドです。また一本しか持ち込めないならばラッキィストライクMをオススメですね。ブランクカラーにも拘ったので様々なグリップやリールにも似合い、キャストフィーリング、操作性も抜群な優等生なロッドになりました。

LS-H56モデル　Length 5ft6in,Lure weight 1oz over,ダークグリーン

抵抗の大きいダーターやノイジー、大型ダブルスイッシャーのジャークなどを扱うならラッキィストライクHの出番です。強靭なブランクなので、ビッグプラグバサーや少々ストラクチャーが厳しい場所に投げ入れる時も安心して挑むことが出来ます。ラッキィストライクは状況に合わせて３機種を使い分けると、更に一日通しての釣りの幅が広がるので戦略的なトップウォータースタイルを楽しんでください。

Harpoon Carbon Casting Rod　攻めのカーボンロッド

HP-56　Length 5ft6in,Lure weight 1/2~1oz,レッド

弾道ミサイル「ハープーン」を気取ってネーミングしたこのロッドはもはやトーナメント的トップウオーターロッドです。カーボン100％のブランクがシャープにロッドを振ることが出来るので、ロングディスタンスのライナーキャストが容易。投げ方を工夫すればルアーウエイトも1ozの大型プラグから、1/2ozの軽量なプラグもキャストが可能です。身動きの取り辛いカヤックの釣りにもオススメです。

BASS FLY ― バスフライ ― 協力：天野慎也、大田政宏

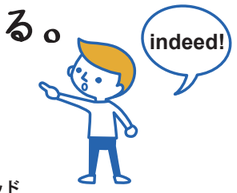
バスからフライを始めてみないか？

フライフィッシングは難しい、覚えることがたくさんある。風が吹くと出来ないし…と、こんなネガティブな印象に囚われる軟弱なつり人はこの先は読まなくてよろしい。こういう人の次の言葉は大抵、決まっている。「暇がない、金がない」つまり夢も希望もナイナイ人間である。若い頃からこんなことを言う人は来年はおろか老後に続く楽しみもないであろう。ここでは色んな釣りに挑戦できる勇猛果敢な釣り師にだけ聞いてもらえれば良いのだ。僕がフライを始めたキッカケはすばり、僕には夢があった。それはいつの日か、スコットランドで鱒釣りをするのだ。お城のようなホテルに泊まり、美しい庭を見ながら朝食を頂くとハンターブーツを履き、頭から英国スタイルでバッチリ決めて、城の隣を滔々と流れる川でアトランティックサーモンを狙うのだ。運よくサーモンを僕の手に抱くことが出来れば、そのままパブに行って地元の男達に速攻で自慢するのだ。俺はサーモンを獲ったどーー!と、日本語で言ってみよう。(笑)もちろんその後はそこにいる客全員にほどほどの値段のウイスキーをワンショット振る舞って「スランジーバ(乾杯)!」と叫ぶ。とまあ、こんなところである。ではなぜフライかと言うと、色々スコットランドの釣り事情を調べるとライセンスや様々なレギュレーションがあることを知る。もちろんパブリック区間と呼ばれるフライ、ルアー、エサ釣りなんでも出来る区間もあるが、ビートと呼ばれる鱒が潜む好ポイントはギリーと呼ばれるフィッシングガイドに手入れをされ、そのほとんどがフライフィッシング限定という文字である。いつ行くかなんてまったく決めていないが、もしも行った時に「おい、日本の兄ちゃん、釣りが好きなら好きなだけやりな」「でもフライだけだぜ、ここは!」なんて言われたらどうしよう…である。フライが出来ないとスコットランドの釣りは楽しみが半減するかもしれない。いや出来ないかもしれないと思ったのだ。これは英国鱒釣りを夢見る僕にとっては大問題である。フライくらい出来なければ…!これが僕がフライを始めたキッカケである。フライを勉強してみると、実に知らない言葉が出てくる。知らない言葉を調べるとまた知らない言葉が出てくる。これには参ったが、これがかなり面白い。フライをする人は話し好きが多いみたいで教本には脱線話ばかり。例え話も多くて一つのキャストを言うにも何種類も言う人がいて初めは戸惑うが、実際にやり始めると、この人の表現は自分に合っているとか分かってきて面白い。少し覚えるとやってみたくなる。公園でも芝生でもフライロッドを出してキャストしてみたくなる。少しずつ…が、劇的にラインが出るようになった大技もある。出来ると何か釣ってみたい。身近で何度も練習できそうな魚を探したら野池のバスがいた。やってみると水面でバコバコと喰ってくる。良い時はワンキャストワンフィッシュ。渓流で何度もキャストをするうちに後ろの木に引っ掛けて魚を散らしてしまった経験とは雲泥の差のキモチよさである。かくして僕は未だにスコットランドへ行ったことがないが、もしも行けたら、その時はギリーに胸を張ってフライキャストをみせる。しかし忘れていたことがあった。次は英語の勉強だ・・・(汗)僕の夢は続く。

バスバグを遠くに飛ばす必要はない。15mくらいの距離をまずはしっかり投げられれば誰でもバスはよく釣れる。

とりあえずこれさえあればフライが始められる。

イラスト：スタジオビス



フライラインの知識

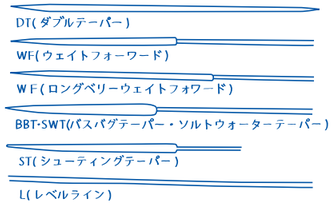
ライン重量と釣り場の適正
フライラインの番号は先端から30フィートまでの
重さで1～15番までAFTMA規格が設定されている。

3 ④ 5 6 7 ⑧ 9 10 11 12

渓流　大川 海 海（遠投もの）
湖　湖 バス　海大もの

図＊1

フライラインの形

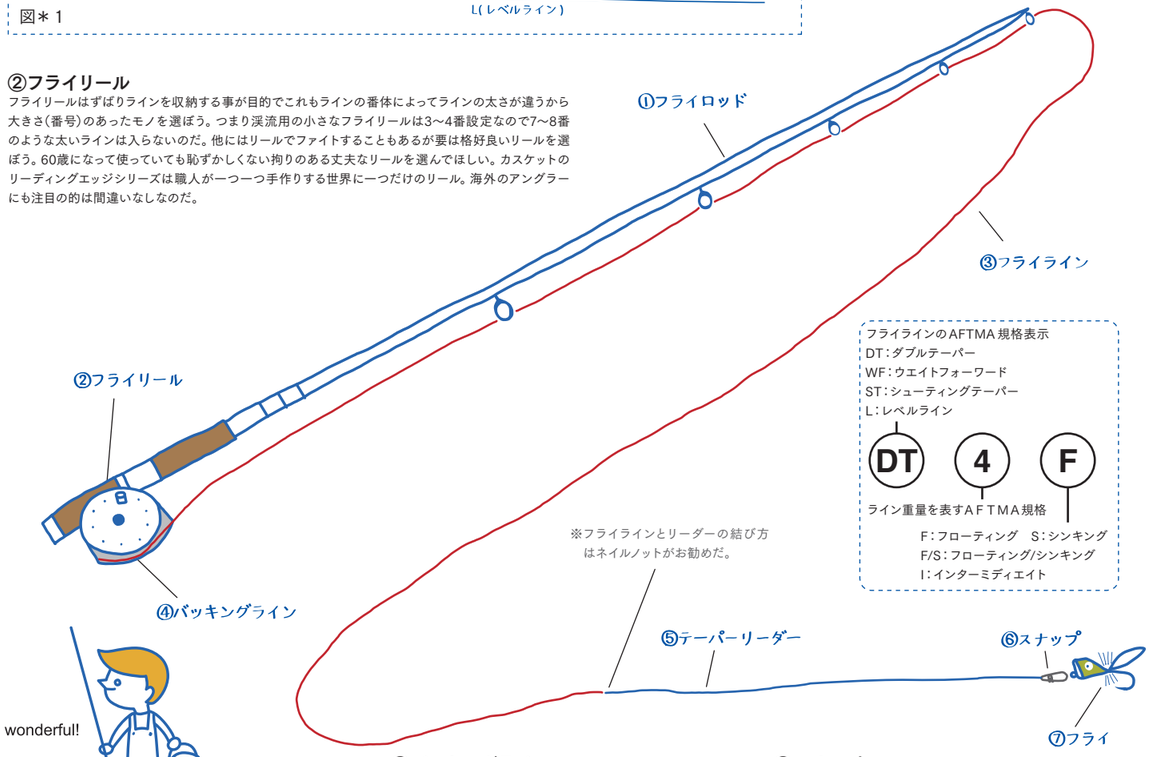


①フライロッド

フライロッドは使用するライン番体にあったモノを選ぶ。フライはラインの重さを使って飛ばすからフライラインの重さ（＃～番表記）がまず重要なのだ。使用する場所で異なるフライラインの目安は左の図を参考にしてもらいたい。（図＊1フライラインの知識）カスケットではdearbass＃666が6番表記で5～6番が適当なライン設定でdearbass＃777は7番表記で7～9番までが使用目安だ。

②フライリール

フライリールはずばりラインを収納する事が目的でこれもラインの番体によってラインの太さが違うから大きさ（番号）のあったモノを選ぼう。つまり渓流用の小さなフライリールは3～4番設定なので7～8番のような太いラインは入らないのだ。他にはリールでファイトすることもあるが要は格好良いリールを選ぼう。60歳になって使っていても恥ずかしくない拘りのある丈夫なリールを選んでほしい。カスケットのリーディングエッジシリーズは職人が一つ一つ手作りする世界に一つだけのリール。海外のアングラーにも注目の的は間違いないなのだ。



③フライライン

フライラインは長さは通常30mでラインの重さによって番号がある。目的に合ったラインの重さを選択することが肝心だ。また、より飛ばしやすいように先端が重く太くなってリール側に従い細くテーパーして作られているラインのことをウェイトフォーワードテーパー（ＷＦ）と呼ぶ。さらにそれよりも先端に重心を寄せたモデルをバスバグテーパーと呼び、カスケットのフライシステムの場合、これらの二つをお勧めしている。

■オススメライン
ROYAL WULFF:TTBA- (6-8) FG
AIRFLO:RIDGE LINE DISTANCE TAPER WF (6-8) F

④バッキングライン

フライラインが約30mなので、その根元に巻く下糸ラインのこと。30-60LBのPEラインでも良い。このラインは大型で走る魚に30m以上出されたときを想定して必要だが、バスではほぼ使用することはない。しかしいきなりリールに巻くとフライラインにクセがつくのでスプール径を太くする役割がある。

⑤テーパーリーダー

フライラインからフライをつなぐ間のライン。名前の通りフライラインに結ぶ所は太く、先端に従って細くなっている。バスバグは渓流用のフライと比べて重く、空気抵抗があるので通常鱒フライショップのテーパーリーダーは最後にターンさせられなくて適さないものが多い。様々にあるものの中でカスケットが唯一お勧めできるのはマキシマのテーパーリーダー（0-2X）だ。讃岐うどんのように弾と腰、バネがあって最高のライン。ただしテーパーリーダーが用意できなければ太いラインと細いラインを継ぎ足して作るいわゆるノッテッド・テーパーリーダーシステムでも良い。このシステムの参考はコントロールリーダーとして、8号ラインを1.5m、4号または3号ラインを0.5～1mつないで作る。

⑥スナップ

テーパーリーダーの先端をスナップで結んでおけばフライの交換に便利なのでお勧めだ。誤解しないでほしいのは通常のフライシステムだとここにはティペットというハリスの役割のラインがきてフライに直結される。しかしバスを釣るフライの場合ティペットを長くとると、うまくターンすることが出来ないので僕は省略している。直結でも良いけど結び変える度に短くなるから、やはりあった方がいいと思う。大きさは軽くて小さな＃0-1がお勧め。

⑦フライ

フライはバスを誘い出すいわゆるルアーだ。本物に似せたモノからコミカルな表情でスプラッシュを上げるのに工夫されたポッパーなど様々。カスケットでは全国のフライを愛する個人タイヤーのフライを販売させてもらっている。

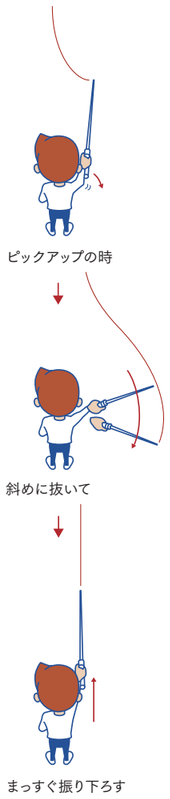
フローティング
バスバギングを
極めたロッド
＆フライリール

dearbass #777　Length 7'7",line #7~8

#777は7'7"、ウエイトフォーワードフライライン#7～9をしっかりロッドに乗せられるバスフィッシングコンセプトのフライロッドです。多くのトラウト用フライロッドの#7,8対応ロッドは9'近いレングスですが、ショートレンジで精度を求めて楽しむバスフィッシングには長すぎます。少々の風でもフライゲームを可能にし、ボリュームのあるプラグフライをしっかり一日中キャスト出来る最低限で最高のスペックが#777には盛り込まれています。

dearbass #666　Length 6'6",line #5~6

フライキャストになれてくると、ほんの少しタックルパワーを下げたくなるのが釣り人の性。#777のパワーゲームでバスフライを覚えた後は、このロッドでフライの腕をさらにステップアップしてください。#777ほどの強引なゲームは出来ませんが、ダブルフォールのタイミングをしっかり掴んだアングラーならば、そうキャストに苦労はしません。もちろんヒットしてからのバスとの時間はより長く楽しめます。



**ロッドは
まっすぐ振って
まっすぐ降ろさない方
がいい。**

これも言い過ぎかもしれませんがつまりまっすぐ振ってまっすぐに出すとラインやフライがロッドや体に当たりやすくなるんです。だから僕はピックアップするバックキャストのときは斜めに抜いて、前方に押し出すフォーワードキャストはまっすぐに振り下ろします。こうするとフライが体の近くを通過しません。これをカーブドキャストといい、前述のハンマーを振り回す動作と思えば簡単ですね。

CF002 #3-8

ラインサイズ：#3-4、# 5-6、#7-8の3タイプ

ライズドピラータイプと呼ばれるオーソドックスなスタイル。この形は見た目よりも大きなラインキャパで軽量に仕上がる利点があります。フレームリム部分は手仕事によるヤスリ掛けで仕上げられています。見た目はシンプルですが、手の入った作のリールです。

CF018 #5-12

ラインサイズ：#5-6、#7-8、#9-10、#11-12の4タイプ

中・大型のバーミンガム両軸受けスタイルのリールです。優雅なS字ハンドルでクラシカルな様子の中にも強力なドラグを発生させるディスクブレーキを内蔵しています。ディスクローターをオフセットした位置に設けた珍しい構造です。

CF019 #5-8

ラインサイズ：# 5-6、#7-8の2タイプ

ハンドル回転がフレーム内に備えた一対のギヤで増速されるマルチプライヤーと呼ばれるタイプです。スプール回転が速いのでラインの巻き取りが早く出来るというのが利点ですがそのスタイルはいかにも「メカ」といった様子を持っていて楽しい形です。クラッチ入りディスクを内蔵の強力ドラグ。

CF007 #3-8

ラインサイズ：#3-4、# 5-6、#7-8の3タイプ

アイボリーのサイドプレートが目を引くバーミンガムスタイルのリール。ボルトが表面から見えないようにして優雅さを演出しています。再度プレートの取り替えが可能。たまにはこんなオシャレなリールを付けてロッドを振るのも楽しいものです。

TRAD MINNOW

木製ミノーの引力。

トラッドミノー

協力：本田祐一、鷲崎弘典

鱒を釣るなら木製小魚（ミノー）に限る。少し言い過ぎだが、それは気持ちの問題であって釣果に大差はないかも知れない。金属片のスプーンで釣るのも素敵だし、プラスティックのミノーは内部に様々な仕込みが可能で性能は素晴らしい。しかし、その魚との出会いの思い出を増幅させる釣道具としては木製ミノーに限ると言いたいのだ。僕はいつも釣道具を部屋の置物として捉えてきた。ランディングネットは半年以上は使わないものだし、収納にも面積を占める。壁掛けにしようとしたら部屋に似合うものが良い。ミノーだって棚に仕舞えば見えるものではないけど、良い魚を釣ったミノーはもう失いたくないので使わない。出来ればその魚の写真とともに飾っておきたいのだ。トラッドミノーはコミカルな表情で愛嬌のある木製のミノーである。どこかとぼけた顔がこれは本物ではないよ、疑似餌ですよと主張している。僕の部屋ではノスタルジックなおもちゃのような存在なのだ。しかし、木製のミノーは小魚に近いとも言っておこう。それはなにより中身が詰まっていること、比重があること。つまり水を押す力や音が格段に違う。想像して欲しい。空のペットボトルに100ccの水か鉛を入れて落とす場合と同体積で100gの木を落としたとする。明らかに水面に落ちる音が違うだろう。空中から落ちてくるものに神経質な鱒には警戒感に差が出ると思う。これは鱒だけでなく他の魚種にも言える。例えばヒラマサのトップウオーターの釣りでは大きなウッドミノーを選んで捕食されることがある。まだ理由は分からないが魚がなにか感じていることは確かなようだ。この写真のヤマメは木製のトラッドミノー90F（左写真）で釣った。何度か出てきて捕食態勢に入ったヤマメの目の前にミノーを持っていき、流れの中でそれは生き生きと動いて、そしてついに喰わせた。傷のない百戦錬磨の大ヤマメも落ちたミノー。やはり木製ミノーには引力があるのだ。

又長53cm、胴囲38cmの大ヤマメに口を使わせたのはトラッドミノー90mmフローティング。

Loop Knot Hook

ミノー専用に手島が考えたアシストフックがこの魚を確実なキャッチへと導いた。ループノットフックはミノーサイズに合わせて発売中。

ミノー参考サイズ	シングル設定	ダブル設定
5cm クラスミノー トリプルフック #14-10 番	LK-S #14-10	LK-TW #14-12
6cm クラスミノー トリプルフック #14-10 番	LK-S #14-10	LK-TW #14-10
7cm クラスミノー トリプルフック #8-4 番	LK-S #8-4	LK-TW #8-4
9cm クラスミノー トリプルフック #4-1 番	LK-S #8-4	LK-TW #4-1

TRAD MINNOW — トラッドミノー — 協力：ロジカルベイツ、ストリームデザイン

ミノーにどこまで遊び心を入れられるか？

TRAD minnow

カラー：0時から、レインボー、レッド、ブラックジミーハーディ(ケイムラ)、セルタ、シェル・ブラウン、シェル・アマゴ、シェル・エノハ、シェル・レインボー、ブラウン、ワカサギ(ケイムラ)、サビアユ、ワカアユ、ピンクエノハ、エノハ、ミドリヤマメ、アマゴ、ニッコウイワナ、イトウ

ミノーイングで鱒や渓流魚を釣るにあたってリアルフィニッシュが最も釣れるかと問われれば、それは必ずしもそうではありません。ここに疑似餌釣りの趣味としての趣があります。例えば金赤やチャートリュースグリーンなど、通常のフィールドにはあり得ない色のミノーに鱒は時折、狂ったようにアタックしてきます。それは鱒の縄張り行動であったり、生存競争の本能が攻撃を仕掛けさせるからに他なりません。またリアルということは生き物にとってのカモフラージュに近づけることです。だからリアルから少し外してやると目立つかもしれない。その「ハズシ」に僕らは真面目な遊び心を入れてみるのです。この遊び心こそがルアーフィッシングの醍醐味です。我々は今までの経験や古くからの話を元に、また最新の技術も取り入れながら、鱒が釣れる、そして釣れると楽しい遊び心をミノーに塗っています。

NEW NOSTALGIC MINNOW

懐かしい山女に出逢いたい。このミノーはそんな懐古主義なアングラーに絶賛されることウケアイです。オールドフェイスながら最新の使いやすいアクションを実現したミノーが2011年、登場します。

SYLET DIVER

シレット巻きと名付けた究極のリトリーブ専用ミノーを開発中です。ただ深く潜るだけでなく、ピッチの早いローリングに食い気のない鱒が思わず排除したくなる衝動に駆られることを狙って実験中です。

鱒は木製ミノーで釣ってこそ。

TRAD 90mm
FLOATING:8.6g ※すべてフックレス重量

フローティングウッドミノーとは思えない飛距離と飛行姿勢ではるか対岸の遠くにも、倒木のオーバーハング下にもこのミノーは果敢に攻めることが出来ます。アップクロスでも使えるリップ設計でトウイッチのヒラウチアクションは大きくも小さくも演出が可能。間を入れたトウイッチでもスローフローティングなので水深をキープしつつ瞬間バイトにも魚がミスをしにくいアクションです。またカスケットが生み出したスイッチアクションこと、トウイッチ後の追尾にストレートリトリーブで食わせるアクションにももちろん対応。このミノーはあらゆるタイミングでチャンスを逃しません。

TRAD 78mm
FLOATING:5.0g & HEAVY SINKING:10.0g

トラッドミノーとしての原型はこのミノーから始まりました。本流を攻め切るフローティングとシンキングのラインナップ。小鮎を意識した78mmのボディから生み出す飛距離と波動は多くの本流ヤマメやサツキマスを手にしてきました。フローティングは瀬についた鱒を執拗にアピールし続けることが出来るハイバランスなローリング設計。早瀬でも飛び出しません。それにファットボディは十分な飛距離も約束。シンキングは春の強風が吹く本流にも安定した飛距離を出し、空中に飛ばされるラインがミノーを持ち上げようとしてもしっかりとアンカー効果で確実に水中でアクションし続けることが出来ます。

TRAD 60mm
HEAVY SINKING:6.0g

シンキングながら機敏なヒラウチアクションを損なわず、食わせのスイッチアクションのただ巻きにもかなり低速リトリーブを可能にすることが60mmの命題でした。そしてそこに最大限のウエイトを詰めていくことでこのミノーは誕生。結果、60mmのコンパクトボディから生み出される飛距離は重量が大きい78mmに迫り、移動距離の少ないテーブルターントウイッチは短いロッドでさらに連続アクションが容易になりました。本流の鱒も経験のないパニックダンスをひとタナ深い層で展開。また回遊が遠い湖のショアミノーイングでもロングキャストのおかげでますます実力を発揮しています。

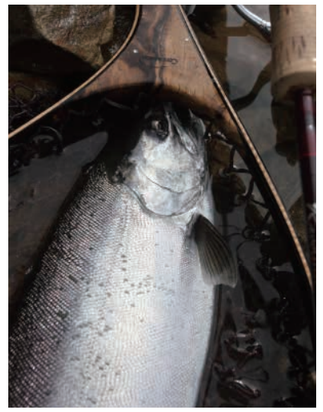
TRAD 50mm
SINKING:3.5g & HEAVY SINKING:4.3g

渓流で多用されるアップクロスを念頭に泳ぎのバランスを設計。それは着水後、すぐに開始されるトウイッチにもワンアクション目からしっかりと応えます。これは前傾姿勢が生み出す効果でフロントからシンキングさせることで複雑な流れの落ち込みにカウントダウンしてもラインを拾ってミスアクションせず、慣性力のついた左右のトウイッチはローリングしながら倒れ込むのでアピール抜群です。もちろん食わせのスイッチアクションこと、最後のリトリーブにも機敏に態勢を整え、最大限の低速で引くことが出来ます。またヘヴィシンキングは、強風時や、大淵または中流を狙うのに最適です。

JACK GAUDI — ジャックガウディ —

広大な湖からサクラマスを見付けだす。

ジャックガウディの由来はスコッチウイスキーの名門バランタインのマスターブレンダーの名前である。由来を説明するには少しお話にお付き合い頂きたい。ある日、いつものようにジャックがシングルモルトのアロマをチェックしていた時のことである。ジャックは小さな異変に気づいた。再びグラスの香りを嗅ぎ、そして光にかざした。その繊細なウイスキーは明るい黄金色に輝き、ほとんど緑に近い色彩を帯びていた。このこと自体に問題はない。ほのかな甘みにピートの香り、海岸地方独特の潮の香りが混じっている。まさにブリテン島北部、プルトニー蒸留所の特徴をきちんと備えている。しかし何かが違う。ジャックはすぐにトム・スコットに連絡をする。社長であるトムもジャックも北海の沿岸にそそり立つ石灰壁の蒸留所の品質管理がいかに厳格であったかを良く知っている。だからとても信じられない。「ジャック、プルトニーに野の花が入り込むことなんてあり得ないよ」。しかしジャックはスコットランドではもはや忘れられている、ある植物の名を告げた。熱烈な園芸愛好家のトムは一笑した。いくらなんでも「サクラソウ」はあり得ない。"プリムラ・スコティカ"と呼ばれるその花は希少種で目にしなくなって久しい。それはあり得ない話だった。ジャックはそのボトルを仕事机の上に置いた。スコットランド随一のブレンダー、そしてウイスキー業界の長老として、彼はこの謎を未解決のまま放置できなかった。ただちに調査チームが、北海の灰色の海原に突き出すウィックに派遣された。しかし、蒸溜所周辺にサクラソウに似た植物は見当たらなかった。そこで調査チームは蒸溜所の水源を調べることにした。そして、ヘンプリッグス湖から蒸溜所までの水路で、その珍しいサクラソウが岸に群生しているのを見つけたのだ。学術的にも貴重なもので、その後、地元の環境保護団体が周辺にフェンスを取り付けることになった。これが有名なジャックガウディ、奇跡の嗅覚の逸話である。さてジグ、「ジャックガウディ」に話を戻そう。ジャックガウディとはなんの変哲もない金属片であるが、スプーンではない。海釣りにはなじみ深いショアジギングを湖で行うために開発したジグである。早朝のいい時間を逃した僕らはなんの事件も起きない湖面に20gのジグを沈めた。フルキャストでおおよそ40mほど沖に着水し、ラインを張って沈める。水深は深く、沈み終えるのに約40秒ほど掛かった。ラインはPEライン0.8号。フロロショックリーダー1mをFGノットで結束。底が取れたところでアクション開始。リズムよくトゥイッチするようにアクションさせて、水中のジグを左右に飛ばすイメージで棚をどんどん上げてくると20mくらいのところでいきなりジグが止まった。次の瞬間、重さがドスンと乗る。次の瞬間、ゴンゴンとロッドを揺らし、ギシギシとガイドが鳴って、とんでもない大物が掛かったと思った。今まで散々、スプーンを沈めたり、早巻きしたり、ミノーも投げても、反応無しだったのに一投目である。見たこともないサイズのサクラマスが横たわる。そして2匹目が掛かるのにも時間はかからなかった。またも竿が絞られる。続いて一人、また一人。このショアジギングでサクラマスが掛かり続けたのだ。この釣り方に可能性を見た僕は色々なことを試してみた。川鱒はリアフックの重要性を思っていたので、フロントのアシストフックには自分たちも疑問に思っていた。しかしある時、高台で水中にステイする30cmほどのサクラを見付けてジグを追わせてみた。すると追尾はおおよそ川で見る蛇行の動きと同じだったが、最後には回り込んで頭から飲み込み、一気に反転喰いした。それは同じ場所で3度、3匹も起こった。このことにサクラマスがワカサギを捕食するときは海の青物同様、その遊泳力を活かしてターゲットの前方に回り込んで頭から飲み込むことを確信した。ジグの意匠にはマス狙いの拘りを存分に入れている。立体感と水切れ、横飛び、フラッシングを考慮して鋳物成形で仕上げ、側面はハンマードと鱗模様を施す。ウイスキーの微かな香りを逃さず、サクラソウを見付けたジャックにあやかって、広大な湖からサクラマスを引き出すジグ・ジャックガウディはもうすぐ日本の湖に誕生する。



湖はジャックガウディで一変した。水中から次々と40cmを超える陸封サクラが現れてギラギラと光る。

参考文献
「英語版The Scotch, The Story of Ballantine's 17 Years Old ザ・スコッチ―バランタイン17年物語」（グレアム・ノウン著／マイケル・ジャクソン序／田辺希久子訳

ジャックガウディは日本の湖の鱒の狙い方を一変させるだろう。ロッドは少し張りがあってティップは柔らかなロッドの方が食わせの間を取りやすい。
レボリューションRB72MHSかトライアンフTRB72MHSが一日中ジギングするのにオススメ。ラインはPE0.8～1.2号、ショックリーダーはフロロの8～12LBを1mほど。
通常はフロントのアシストフック仕様が基本で底を取ったらジグが横飛びするくらいのアクションを入れてジグが止まった瞬間、またはヒラヒラフォールでガツンというイメージ。本流の流れのない大淵においても実績が出ている。表層を狙うキャスティング時はリアフック仕様でリトリーブするとピカピカとスイミングアクションするよう設計しているので日本全国の湖、海の鱒に試して欲しい。JACK GAUDI 65mm 16g。初回はディンプルバージョンとプレーンの2種類、それに専用アシストフックを2011年4月発売予定。